

平成29年度 鹿児島高専 COC+事業報告

鹿児島工業高等専門学校

目 次

1. 国（文部科学省）と鹿児島県の COC+事業および	
鹿児島高専における COC+事業	1
1.1 文部科学省の COC+事業	1
1.2 鹿児島県の COC+事業	1
1.3 鹿児島高専の COC+事業	2
1.4 鹿児島高専における COC+事業目標値	3
2. 鹿児島高専における「地（知）の拠点大学による	
地方創生推進事業（COC+）」の事業	4
2.1 「COC+高専」地方創生事業推進会議の実施	4
2.2 学生に対する地元自治体や地元企業による	
特別講義・講演、企業見学の実施	5
2.3 学生及び保護者に対し企業セミナーの実施	6
2.4 インターンシップの推進	7
2.5 地元企業との共同研究を通しての人材育成の実施	8
2.6 霧島市内企業等への就職実績	8
3. まとめと今後の課題	9

参考資料

1. 国（文部科学省）と鹿児島県のCOC+事業および鹿児島高専におけるCOC+事業

1. 1 文部科学省のCOC+事業

地（知）の拠点大学の地方創生推進事業（COC+：Center of Community Plus）は、文部科学省が、平成27年度から、大学等が地方自治体や企業、民間団体等と産学官で、協働して、学生にとって魅力ある就職先を創出するとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を実行する大学の取組を支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的として実施するものである。我が国においては、「将来の人口減少が地域経済の縮小により加速する」ことが危惧されており、地方と東京との経済格差拡大が、東京の一極集中と若者の地方からの流出を招くとされている。そこで、文部科学省では、地方の大学が地域の自治体や中小企業等と協働し、地域の雇用創出や学卒者の地元定着率の向上に関する計画を策定し、実行することを求めている。

具体的には、図1に示すように、大学等が地域の各種機関と協働し、学生にとって魅力ある就職先を創出・開拓するとともに、地域が求める人材を育成するための教育改革を実行することと、COC+推進コーディネーターを配置し、事業協働地域の連携強化や取組みの進捗を管理することを求めている。事業協働機関が設定した目標達成に向け、大学力（教育・研究・社会貢献）を結集させ、事業協働地域における雇用創出と事業協働地域への就職率向上によって、地域活性化を目指す。

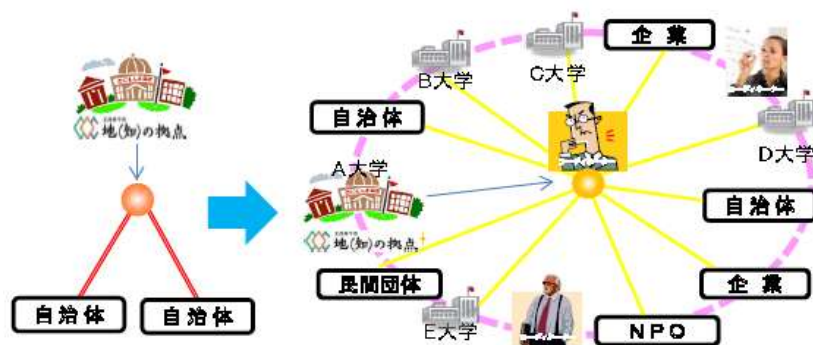


図1 文部科学省のCOC+事業のイメージ

1. 2 鹿児島県のCOC+事業

鹿児島県におけるCOC+事業は、平成27年度～平成31年度の5年間にわたる協働事業であり、図2に示すように、鹿児島大学を拠点校として、5大学（鹿児島大学、鹿児島国際大学、志学館大学、第一工業大学）、2短大（鹿児島県立短期大学、鹿児島女子短期大学）と鹿児島工業高等専門学校（鹿児島高専）の8高等教育機関と鹿児島県、団体・企業等で構成される組織で実施している。地元産業界のニーズを踏まえた学卒者の地元就業率向上につながる教育改革の推進、参加大学等の「知」と地域の「地」の特色を活かした新規雇用創出と既存雇用拡大、地元就業率向上と持続的定着につながる事業協働機関の連携強化を目的として、図3に示すような具体的な地元就職率増を目標として、以下の事業を協働して推進している。

- ① 地元就業率向上と持続的定着につながる事業協働機関の連携強化
- ② 地元企業の魅力を学生に伝える体験型、座学による講座、地元就職支援体制構築
- ③ 参加大学の知と地域の特色を活かした新規雇用創出と既存雇用拡大
- ④ 地元産業界のニーズを踏まえた学卒者の地元就業率向上につながる教育改革の推進
- ⑤ 鹿児島県内の大学等による地域ニーズの的確な把握と教育プログラム構築
- ⑥ 地域志向マインドの養成、インターンシップ
- ⑦ 地元企業との共同研究や委託研究の推進



図2 鹿児島県のCOC+事業協働組織



図3 鹿児島県におけるCOC+事業の数値目標

1.3 鹿児島高専のCOC+事業

上述の文部科学省と鹿児島県におけるCOC+事業を踏まえ、鹿児島高専における独自のCOC+事業に取り組んでいる。図4に示すように、知的・人的資源を有する鹿児島高専と包括連携協定を締結した公的資源を有する霧島市および日置市、技術的資源を有する鹿児島高専テクノクラブ会員企業代表、両市の商工会議所および商工会の代表、鹿児島経済研究所、鹿児島高専地域共同テクノセンターの産学官の13名で構成される「COC+高専」地方創生推進会議を設立した。それぞれが有する資源を活かして「地元就職率の向上」、「地元企業の活性化」、「雇用創出」、「新規産業育成」、「人材育成」、「共同研究の推進」に向け、地域共同テクノセンターが中心となって事業を企画、立案し、産学官が協働して、実施していくことになっている。



図4 鹿児島高専におけるCOC+事業の組織イメージ

これらを推進するために、「COC+高専」地方創生推進会議において、図5に示すような取り組みイメージで連携し、鹿児島高専を中心に、地元就職率向上を目指し、地方創生推進事業を展開している。具体的な推進事業は図9に示す5項目であり、その取り組み内容を以下に示す。

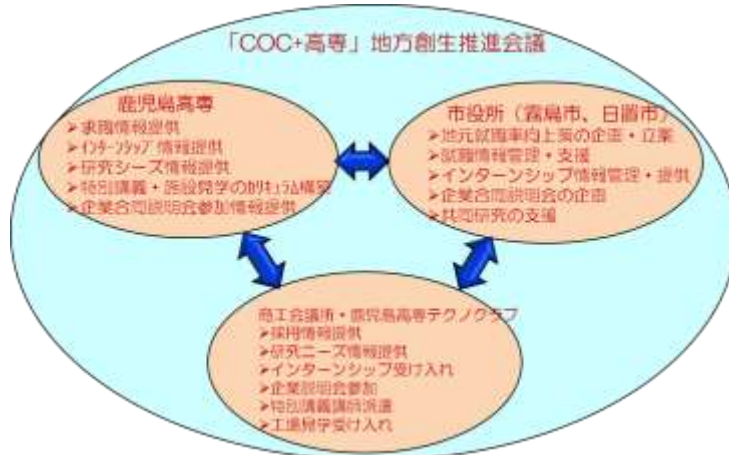


図5 鹿児島高専におけるCOC+事業の連携イメージ

＜推進事業Ⅰ＞ 地元企業インターンシップの推進

鹿児島高専は、地元企業や市役所の協力を得ながら学生の受け入れ企業の開拓を行う。学生は、就業体験を通して、地元企業の魅力や良さを知り、新規学卒者の地元就職率アップに繋げる。



図6 地元企業インターンシップ

＜推進事業Ⅱ＞ 地元企業合同説明会の推進

鹿児島高専は就職指導、市役所は、説明会の企画と高専への橋渡し役を行う。学生の就職希望と企業の求人のマッチングを行い、学卒者の地元就職率の向上を目指す。市役所、商工会・企業、高専が一体となって就業マッチングの機会を設け、地元雇用の推進を図る。



図7 地元企業合同説明会

＜推進事業Ⅲ＞ 地域教育特別講座の推進

商工会議所・企業、市役所から鹿児島高専へ有識者、技術者、職員を派遣して、学生に地域の産業・環境・文化など地域資源に関する分野の講演を通じて、地域社会を理解してもらう“地域教育特別講義（集合教育、ゼミ、施設見学）”を実施する。将来の地域活性化を担う若年者の人材育成を行う。



図8 地域教育特別講座

＜推進事業Ⅳ＞ 奨学金による地元就職の推進

地方創生交付金などを活用し、市役所および企業が連携して地元での新卒者の雇用と定着を図るため地元就職者奨励金支給制度を設立し、新卒者の地元就職を促進する。

＜推進事業Ⅴ＞ 地元企業ニーズと高専のシーズによる共同研究の推進

地域の特徴を活かした新産業創出を図るため、高専のシーズと地元企業のニーズをマッチングさせた共同研究を推進する。地元企業との共同研究を推進するための助成金制度を設ける。

推進事業Ⅰ	・ 地元企業インターンシップの推進
推進事業Ⅱ	・ 地元企業合同説明会の推進
推進事業Ⅲ	・ 地域教育特別講座の推進
推進事業Ⅳ	・ 奨学金による地元企業就職の推進
推進事業Ⅴ	・ 地元企業ニーズと高専のシーズによる共同研究の推進

図9 COC+高専地方創生推進会議における COC+推進事業

1. 4 鹿児島高専における COC+事業目標値

これらの事業の成果の指標として、鹿児島高専における5年間の地元就職率とインターンシップ参加者の目標値を表1に示す。COC+事業の地元就職率とインターンシップの目標値は、平成26年度をベースに事業実施5年間の目標値を計画することとなっている。平成26年度の地元就職率16.4[%]は、地元就職者数の各科平均が約5名程度の実績から、毎年3~5名程度増やし、5年後には、例年の各科平均就職希望者数約30名の中から各科約7名(20%~30%)程度の地元就職を目標に、年度ごとに概ね2[%]~4[%]増として比例的に増やす努力目標として想定している。ちなみに、平成24年と平成25年の地元就職率は、それぞれ14.3[%]と13.8[%]と平成26年度より約2.1~2.6[%]と低い水準であったが、これを基準とすることはできなかった。また、就職学生数全体数値は平成26年度の135人を基準として5年間の目標値を算出しているが、これは年度ごとに変化するものであり、地元就職率に影響を与えるファクターである。さらに、インターンシップ参加者数の目標値は、平成26年度の29人をベースに、年度毎に3名~5名の増を目指し、最終年度は、50人を目標とし、4年生の在籍者数(190名~200名程度)全てが、インターンシップを受講すると想定した1/4即ち25[%]程度を県内企業のインターンシップを受講させる目標値としている。

表1 鹿児島高専における地元就職率とインターンシップ参加者目標値

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
COC+参加大学 地元就職率（A/B）	16.3%	18.5%	20.7%	23.0%	25.9%	28.1%
地元就職学生数 A	22	25	28	31	35	38
就職学生数全体 B	135	135	135	135	135	135
事業協働機関への インターンシップ参加者数	29人	34人	39人	44人	47人	50人

2. 鹿児島高専における「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の事業

鹿児島高専では、霧島市、日置市、両市の商工会議所、商工会、鹿児島高専テクノクラブ（KTC）¹などと連携して地方創生推進事業を展開している。

2.1 「COC+高専」地方創生推進会議の開催

本会議は、年4回の推進会議と年度末の評価会議を通じて、新卒者の地元企業への就職と定着を図るための方策と支援を検討し、実施している。

第1回「COC+高専」地方創生推進会議

【日時】平成29年6月9日（金） 10時30分～12時10分

【場所】鹿児島高専管理棟2F 中会議室

- 【議事】1) 地方創生推進特別講義の進め方について
2) 求人・就職アクセスシステム提案事項について

第2回「COC+高専」地方創生推進会議

【日時】平成29年9月20日（水） 13時30分～15時00分

【場所】鹿児島高専管理棟2F 中会議室

- 【議事】1) 地方創生特別講義の進め方について
2) 求人・就職アクセスシステム提案事項について
3) 霧島市企業合同説明会について

第3回「COC+高専」地方創生推進会議

【日時】平成29年12月12日（火） 15時00分～16時45分

【場所】鹿児島高専管理棟2F 大会議室

- 【議事】1) 地方創生特別講義とOB・OGの事例発表の進め方について
2) 求人・就職アクセスシステム提案事項について
3) 霧島市・日置市大学等企業合同説明会について

第4回「COC+高専」地方創生推進会議と評価会議

【日時】平成30年3月19日（月） 10時00分～12時10分

【場所】鹿児島高専管理棟2F 中会議室

「COC+高専」地方創生推進会議

- 【議事】1) 平成29年度「COC+高専」事業評価について
2) 平成30年度「COC+高専」事業計画(案)について
3) 求人・就職アクセスシステムについて

評価会議

- 【議事】1) 平成29年度「COC+高専」事業報告及び評価について



写真1 「COC+高専」地方創生推進会議

¹ 平成10年3月、南九州地域の有志企業が、地域との連携強化を学校の理念の一つに掲げている鹿児島高専と相図って設立した産学官連携組織である。

2.2 学生に対する地元自治体や地元企業による特別講義・講演、企業見学の実施（写真2-7参照）

地元企業への理解を深めるための特別講義・講演、企業見学と体験学習を通じ、地元を志向する学生を育成し、地元就職率及び定着率の向上に繋げることを目的として、平成27年度から、地元企業による特別講義と企業見学を行っている。また、専門的な見地から各企業の業務内容と技術を習得・体験する目的でも実施している。特別講義の実施結果を表2に示す。本年度は、前期5回、後期10回実施した。特別講義風景を写真2～4に示す。

表2 地元自治体や地元企業による特別講義とOB・OG事例発表会

	実施日	特別講義対象学科	特別講義実施企業等
前期	8月7日	電子制御工学科	(株)Misumi
	8月8日	機械工学科	(株)南光
	8月8日	情報工学科	(株)南日本情報処理センター
	8月9日	電気電子工学科	(株)栄電社
	8月9日	都市環境デザイン工学科	(株)大進
後期	11月8日	電気電子工学科	(株)九州タブチ
	11月22日	情報工学科	鹿児島県サイバーセキュリティ協議会
	12月6日	機械工学科・電気電子工学科	日置市役所、OB（JX 喜入石油基地(株)、南国殖産(株)）
	12月19日	電子制御工学科	(株)キラ・コーポレーション
	1月10日	機械工学科	霧島市役所、OB（シチズン時計(株)、(株)キラ・コーポレーション）
	1月19日	情報工学科	霧島市役所、OB((株)ユピテル鹿児島、(株)九州タブチ)
	2月14日	都市環境デザイン工学科	(株)大翔
	2月16日、20日	都市環境デザイン工学科	日置市役所、OB（(株)サタコンサルタンツ、(株)大進）
	2月21日	機械工学科	京セラ(株)国分工場



写真2 特別講義（(株)サタコンサルタンツ OB）



写真3 特別講義（霧島市）



写真4 特別講義（日置市）

また、地元企業の協力により企業見学を実施した。表3に本年度の実施状況を示す。昨年度までは、前期と後期に分けて、各科ごとに、10社実施してきたが、平成29年度は、学内の行事予定やCOC+事業費削減の関係から後期の5社のみで実施した。工場見学風景を写真5～7に示す。

表3 地元企業による企業見学

実施日	対象学科	見学企業
11月15日	電気電子工学科	霧島木質発電(株)
12月13日	機械工学科	(株)飯塚製作所鹿児島工場
12月14日	電子制御工学科	日本特殊陶業(株)
1月10日	都市環境デザイン工学科	鎌田建設(株)
2月14日	情報工学科	(株)ユピテル鹿児島



写真5 企業見学（(株)飯塚製作所）



写真6 企業見学（鎌田建設(株)）



写真7 企業見学（日本特殊陶業(株)）

2.3 学生及び保護者に対する企業セミナーの実施（写真8-19 参照）

（1）霧島市大学生等企業合同説明会 平成29年4月19日 於：国分シビックセンター

本事業は、「COC+高専」地方創生推進会議において、霧島市との協働事業（事業Ⅱ.企業合同説明会の推進）として提案しているもので、実行委員会を立ち上げ、霧島市主催、本校共催で実施した。霧島市内企業30社、本校学生約170名が参加した。写真8～写真10は、その実施風景である。



写真8 説明会風景



写真9 ブース内の様子



写真10 ブース内の様子

（2）保護者向け校内合同企業セミナー 平成29年5月27日 於：鹿児島高専

学生は、保護者に相談して就職の方向性を出すことから、保護者にも県内企業を知ってもらうことを目的として、昨年度から全学年の保護者及び学生を対象に実施している。今年度は、鹿児島高専テクノクラブ会員企業21社 保護者128名 学生11名が参加し、盛況となった。企業の事業説明を親子で聞くことで地元企業を理解し、企業は、親に業務を理解してもらうことで、将来の新卒獲得に向けた活動のきっかけとなる。アンケート結果では、“地元企業を知るきっかけとなって良かった”との感想などが寄せられた。写真11、12は説明会の風景である。



写真11 セミナー風景



写真12 ブースでの様子

（3）校内ミニ企業説明会 平成29年7月10日 於：鹿児島高専

夏季休業（8月中旬～9月）前までの本校の就職希望者の内定率は例年8割程度である。毎年、夏季休業前の未内定者を対象に、地元就職率向上を目指して開催している。この説明会に参加した学生のうち3名が就職試験を受け、内定に至った。鹿児島高専テクノクラブ会員企業16社、学生17名が参加した。写真13、14は説明会の風景である。



写真13 ミニ企業説明会風景



写真14 ブースでの様子

（4）霧島市・日置市大学生等向け合同企業研究会 平成30年1月23日 於：鹿児島高専

本事業は、「COC+高専」地方創生推進会議において、自治体主催の合同企業研究会の開催に向けて議論し、霧島市、日置市とともに実行委員会を立ち上げ、両市内の地元企業を知ってもらうための合同企業研究会として開催した。参加企業は、霧島市30社、日置市3社の計33社、本校と第一工大による参加学生数

は、300名（本校174名）であった。写真15、16は、研究会の開催風景である。



写真15 合同企業研究会風景



写真16 ブースでの様子

（5）高専生のための地域企業研究会 平成30年2月13日 於：鹿児島高専

平成31年3月卒業・修了予定の学生を対象として、本校と鹿児島高専テクノクラブとの連携で開催した。なお、本研究会は、採用情報解禁前のため、採用情報を公表しない形で、あくまで地元企業を知ってもらうことを目的として行った。鹿児島高専テクノクラブ会員企業36社、鹿児島高専本科4年生、専攻科1年生108名が参加した。写真17～19は、研究会の開催風景である。



写真17 開会挨拶



写真18 ブースの様子



写真19 会場の様子

（6）鹿児島高専テクノクラブ会員企業求人面談会

地元就職促進のため、次年度就職担当教員との求人面談会を開催した。面談会には鹿児島高専テクノクラブ会員企業30社から申込があり、3月1日に都市環境デザイン工学科、3月5日に機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、情報工学科の就職担当教員との面談を行った。学生だけでなく、本校教員にも地元企業を知ってもらう良い機会となった。

2.4 インターンシップの推進

COC+事業による人材育成の一環として、地元企業との協働で、インターンシップを活用した人材育成を行っている。県内のインターンシップ受入企業開拓のため、平成29年5月23日県内企業138社へ依頼文書を発送し、70社から受入可能の回答を得た。6月より4年生を対象にインターンシップ受講指導を開始した。本校産学官連携組織である鹿児島高専テクノクラブの新規加入等企業26社へ受入依頼を行ったところ、10社から受入可の回答を得た。各学科4年担任を通じて学生への県内企業インターンシップ受講指導及び8月4日、インターンシップ受講者への受講心得などの指導を行った。その結果、本年度のインターンシップ参加学生総数は156名、うち県内企業参加者は52名であった。

県内企業へのインターンシップ受講を奨励し、インターンシップでの就業体験を通して地元企業へ就職を希望する流れを構築していく予定である。表4にインターンシップ実績を示す。平成27年度にCOC+事業を開始してからの受講生は、順調に増えており、平成29年度は県内企業に52名が受講しており、平成29年度の目標値である44名を超えることができた。

表4 COC+開始年度からのインターンシップ参加者の推移

H26	H27		H28		H29	
	参加総計	県内	参加総計	県内	参加総計	県内
29	105	40	155	42	156	52

2.5 地元企業との共同研究を通しての人材育成の実施（写真 20-21 参照）

COC+事業の一環として地元企業と協働して、本校の産学官連携組織である鹿児島高専テクノクラブ（KTC）とともに共同研究やインターンシップを通じた人材育成を行っている。特に卒業研究を人材育成、技術教育、工学教育の実践の現場として、年間を通し、学生、教員、企業技術者とともにを行っている。卒業研究の時間に、共同研究先の企業技術者が本校に来校し、教員と連携して指導を行ったり、逆に、学生と教員が企業へ出向き、企業現場で教員と技術者が、実験や研究の進捗、研究の問題点について、ゼミ形式でディスカッションし、指導を行っている。

また、夏季休業時には、企業の現場において、共同研究の課題を研究する「研究開発型インターンシップ」も実施しており、学会発表に関しても、共同発表するために学生の指導を行っている。現在、KTC とは、7 件の共同研究を行っており、学生の学会発表を含め、前述のような取り組みを行っている。写真 22 は、A 社における水素ガス検知装置の研究開発型インターンシップ、写真 23 は Y 社における火山灰計測装置の研究開発型インターンシップと学会発表の風景である。

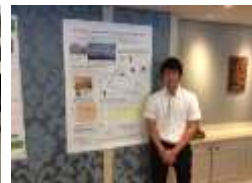


写真 20 A 社での研究開発型インターンシップと開発装置

写真 21 Y 社での研究開発型インターンシップと学会発表

2.6 霧島市内企業等への就職実績

地元就職率向上を目指す取り組みを述べたが、本校の地元、霧島市の企業等への過去 5 年間の就職実績を表 5 に示す。COC+事業を開始してから、平均 7 名～8 名就職しており、地元就職者数の約 4 割を占めており、地域に貢献している数値と捉えることができる。特徴的なこととして、同一企業が連続して採用しており、先輩が就職すると地元企業の魅力が後輩に伝わり、採用に至る好事例と捉えられることから、地元就職を促進させるための就職指導の参考になるものと思われる。

表 5 霧島市内企業等への就職実績

AEI：電気情報システム工学専攻、M：機械工学科、E：電気電子工学科、S：電子制御工学科
I：情報工学科、C：都市環境デザイン工学科

h25年度（3名）

AEI：(株)トヨタ車体研究所
I：(株)ソフト流通センター
M：京セラ(株)鹿児島国分工場

h26年度（8名）

C：霧島市役所
I：(株)YPK（株）ユビテル鹿児島
I：京セラ(株) 国分工場
I：(株)YPK（株）ユビテル鹿児島
E：(株)九州タブチ
E：(株)九州タブチ
M：京セラ(株) 国分工場
C：(株) 住まいず

h27年度（7名）

S：ソニーセミコンダクタ(株)
S：京セラ(株) 鹿児島国分工場
E：(株)九州タブチ
E：鹿児島空港エンジニアリング(株)
M：アイエムティ(株)
E：(株)南日本ガス国分工場
AEI： アルバック九州(株)

h28年度（7名）

I：(株)ユビテル鹿児島
I：(株)九州タブチ
S：(株)キラコーポレーション
E：京セラ(株) 国分工場
M：ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)
E：(株)九州タブチ
I：アルバック九州(株)

h29年度（内定者数 9名）

M：アルバック九州(株)
M：(株)トヨタ車体研究所
E：(株)ユビテル鹿児島
E：霧島木質発電(株)
S：(株)トヨタ車体研究所
S：(株)九州タブチ
I：(株)ソフト流通センター（2名）
I：(株)ユビテル鹿児島

3 まとめと今後の課題

平成 27 年 11 月に採択された COC+事業では、地元定着促進プログラムのコンセプトとして、

- ・地元就業率向上と持続的定着につながる事業協働機関の連携強化
- ・参加大学の知と地域の特色を活かした新規雇用創出と既存雇用拡大
- ・地元産業界のニーズを踏まえた学卒者の地元就業率向上につながる教育改革の推進

を挙げている。

鹿児島高専においては、「COC+高専」地方創生推進会議を年 4 回開催し、事業の進め方、進捗状況等を議論し、主に下記項目について、取り組んでいる。

- ①地元企業インターンシップの推進
- ②地元企業合同説明会の推進
- ③地域志向教育特別講義の推進
- ④奨学金制度による地元企業就職の推進
- ⑤高専シーズと地元企業ニーズによる共同研究の推進

これらの取り組みを通じ、実践的技術者として育成された学生が、地元の魅力を感じ、定着することで、地元活性化が促進されと考えている。

平成 27 年度から取り組んできた COC+事業の実績の推移を以下にまとめる。

①地域企業インターンシップの推進

図 10 にインターンシップ参加者の推移を示す。

平成 27 年度は受講生 105 名のうち、県内企業 40 名（目標 34 名）

平成 28 年度は受講生 149 名のうち、県内企業 42 名（目標 39 名）

平成 29 年度は受講生 156 名のうち、県内企業 52 名（目標 44 名）と目標を達成し、かつ年々増加している。

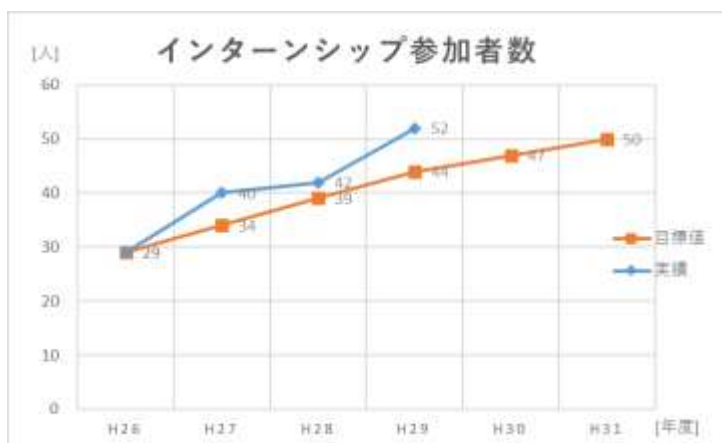


図 10 インターンシップ参加者の推移

②地元企業合同説明会の推進

平成 27 年度より、地元企業合同企業研究会を年数回開催して、地元企業を知る機会を提供してきた。平成 28 年度からの新たな取り組みとして、霧島市や日置市に協力を仰ぎ、両市主催の合同企業研究会の検討を開始した。平成 29 年度は、4 月に霧島市主催の合同企業説明会、2 月に霧島市・日置市主催の合同企業研究会を開催した。また、これまでの取り組みに加え、学生だけではなく、教員も地元企業を知る必要があることから、次年度就職担当となる教員と KTC 会員企業との求人面談会を平成 30 年 3 月に実施した。

③地域志向教育特別講義の推進

平成 27 年度から地元企業の特別講義を継続的に実施してきた。平成 28 年度からの新たな取組として、霧島市及び日置市職員による地方創生に関する講演を行った。平成 29 年度は、霧島市及び日置市職員の地方創生に関する講演に併せ、地元企業で働く本校 OB・OG の事例発表を行った。地元企業をより身近に感じ、進路検討の一助となることを期待している。前期に各学科 1 回、後期に各学科 2 回実施した。また、本科 3 年生を対象として、地元企業見学を開催した。学生からは、机上の説明だけではなく、実際に企業見学をすることで職場の雰囲気や将来自分が働いている姿をイメージしやすいとの意見があった。

④奨学金制度による地元企業就職の推進

地元就職推進のため、学生時代に貸与された奨学金の返還を免除（減額）するような地元就職者奨励金支給制度（仮称）の設立に向けて、平成 28 年度「COC+高専」地方創生推進会議の議題に挙げ、霧島市や日置市と検討してきた。その成果として、平成 29 年度、両市に奨学金返還免除（減額）制度が設立した。学生が学業に専念できるように、両市の奨学金制度を紹介するとともに地元就職を推進していく。

⑤高専シーズと地元企業ニーズによる共同研究の推進

2.5 に記載のとおり、平成 27 年度から KTC と連携して共同研究を推進しており、COC+事業開始前と比較して増加傾向にある。技術者としての人材育成と地元就職の推進を期待して、今後も継続して推進していく予定である。

これらの取り組みの成果である本校の県内就職率の推移を図 11 に示す。

平成 27 年度は就職者 131 名のうち、県内就職者 29 名、22.1%（目標 18.5%）

平成 28 年度は就職者 102 名のうち、県内就職者 19 名、18.6%（目標 21%）

平成 29 年度は就職者 124 名のうち、県内就職者 18 名、14.5%（目標 23%）である。

COC+事業初年度に目標値を達成して以来、地元就職率は減少しており、目標値達成には至っていない。



図 11 県内就職率の推移

その理由として、平成 28 年度以降、進学者率が高くなり、従来就職していた学生が進学希望になったことが挙げられる。平成 27 年度以前の過去 3 年間の（就職率 | 進学率）をみると、それぞれ H25（72.1% | 28.0%）、H26（70.5% | 27.4%）、H27（72.0% | 27.5%）と進学率は 27%程度で推移していたが、平成 28 年度以降は H28（60.2% | 39.8%）、H29（65% | 36%）と進学率が約 10%～12%程度増加しており、これが目標値を達成できなかった一因と考えられる。また、本校教員が県内企業を知らず、学生に県内企業を勧められないということも原因と考えられる。その他、就職試験解禁日の指針（日本経団連の「採用選考に関する指針」）が平成 27 年度の 8 月 1 日から 6 月 1 日に 2 ヶ月前倒しされたことが挙げられる。本校では、4 月～8 月の夏季休業前に、就職活動及び指導が活発に行われることから、2 ヶ月前倒しされたことで、本校での地元に残す取り組みが活かせなかったことも要因に挙げられる。

次年度以降の地元就職率アップの取り組みとして、①インターンシップのさらなる充実、②県内企業（本校 OB・OG）による特別講義、体験学習など、企業の魅力を伝える取り組み、③共同研究により企業の魅力を知らしめて就職を促進する取り組み、④県内企業説明会、県内企業の求人採用案内の活性化、教職員に県内企業を知らしめる取り組み、⑤地元自治体による地方創生に関する特別講義を行い、学生に地元の魅力を知らしめる取り組みなどを予定している。今後、目標達成のために、更なる分析をして活動していきたいと考えている。

参考資料

講義・講演及び企業見学等の実績一覧	11
講義・講演及び工場見学等の実施報告書	12
霧島市、日置市職員及びOB・OGによる地方創生特別講義アンケート	32

講義・講演及び企業見学等の実績一覧

No	日 時	形 式	企業・講師等	対象学科等
1	2017/8/7(月) 14:10～15:10	講義・講演	(株)Misumi	電子制御工学科1年生
2	2017/8/8(火) 12:40～13:40	講義・講演	(株)南 光	機械工学科4年生
3	2017/8/8(火) 12:40～13:40	講義・講演	(株)南日本情報処理センター	情報工学科4年生
4	2017/8/9(水) 11:00～11:40	講義・講演	(株)栄電社	電気電子工学科4年生
5	2017/8/9(水) 12:40～14:00	講義・講演	(株)大 進	都市環境デザイン工学科1年生
6	2017/11/8(水) 14:40～16:10	講義・講演	(株)九州タブチ	電気電子工学科3年生
7	2017/11/15(水) 14:30～17:00	企業見学	霧島木質発電(株)	電気電子工学科3年生
8	2017/11/22(水) 14:40～16:10	講義・講演	鹿児島県サイバーセキュリティ協議会	情報工学科3年生
9	2017/12/6(水) 14:40～16:10	講義・講演	日置市役所 総務企画部企画課 JX喜入石油基地(株)(OB) 南国殖産(株)(OB)	機械工学科3年生 電気電子工学科1年生
10	2017/12/13(水) 14:45～17:00	企業見学	株式会社飯塚製作所鹿児島工場	機械工学科3年生
11	2017/12/14(木) 13:00～17:00	企業見学	日本特殊陶業(株)	電子制御工学科3年生
12	2017/12/19(火) 8:50～10:20	講義・講演	(株)キラ・コーポレーション鹿児島研究所	電子制御工学科4年生
13	2018/1/10(水) 14:40～17:00	企業見学	鎌田建設(株)	都市環境デザイン工学科3年生
14	2018/1/10(水) 14:40～16:10	講義・講演	霧島市役所 企画部企画政策課 シチズン時計鹿児島(株)(OB) (株)キラ・コーポレーション鹿児島研究所(OB)	電子制御工学科3年
15	2018/1/19(金) 13:00～14:30	講義・講演	霧島市役所 企画部企画政策課 株式会社ベルテ(OB) (株)九州タブチ(OB)	情報工学科4年
16	2018/2/14(水) 14:45～16:35	企業見学	(株)ユピテル鹿児島	情報工学科3年生
17	2018/2/14(水) 14:40～16:00	特別講義	(株)大 翔	都市環境デザイン工学科2年生
18	2018/2/16(金) 9:00～10:00	講義・講演	(株)サタコンサルタンツ(OB) (株)大進(OG)	都市環境デザイン工学科4年生
	2018/2/20(火) 11:10～12:00		日置市総務企画部企画課	
19	2018/2/21(水) 10:30～12:00	講義・講演	京セラ(株)鹿児島国分工場	機械工学科4年生
20	2018/2/22(木)	卒業研究審査会		情報工学科5年生

講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 29年 8月 7日（月） 14：20分 ～15：30分	
実施場所	鹿児島高専 大講義室	
実施形態	① <u>講義・講演</u> ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	電子制御工学科 1年 42名	
担当者	鹿児島高専	企業・団体等
	電子制御工学科 教授 宮田 千加良	所属：株式会社M i s u m i 役職：人事課 氏名：筈山智広様 役職：ミスミガス北鹿児島店 氏名：米盛様 役職：情報システム部 氏名：木場様
実施内容	最初に人事課の筈山様が自分の趣味が自動車であることから話をはじめ、会社として欲しい人材は、○自分で考えて行動できる人、○コミュニケーション能力のある人、○問題発見力・解釈力のある人（答えは一つではない時代）であり、採用畑の自分が大切にしていることは、「一緒に働きたいと思えるかどうか」であること、を紹介された。また、欲しい人材は一生懸命頑張った経験のある人、勉強してきた人（社会人になっても勉強は続く）で、コミュニケーションも大事、逆に欲しくない人材は、努力が嫌いな人、協調性がない人、指示待ちな人であり、会社ではなく「仕事人が人を育てる」ことを話された。最後に内定はゴールではなくスタートであり、希望の会社、希望の職種につけるとは限らないので、会社を知る意味でもインターンシップを活用して欲しいと話された。 次に本科卒業生（平成26年3月卒）米盛君から現在の業務の説明がなされた。学生の頃から営業に興味があり、現在はLPガスの営業・保守管理など行っておりその業務内容に関する説明と、地元で働く利点として、今までの色々な人とのつながりが活用でき、楽しいと話された。さらに本科卒業生（平成25年3月卒）木場君から業務の紹介があった。情報システム部でオラクルやSQL等を使ってソフトウェアを開発しており、楽しいと紹介された。学生時代はソフトは苦手であったが、自分でも十分エキスパートになれる。ITの時代Programは重要、知っているとは重宝される。また5年で卒業できなくてもネガティブにならなくてもよい、等アドバイスがあった。 説明の後、「生きがい」についてなど質問も出された。企業が欲する人材や卒業生の話等、参考になる話も多く、興味を持って真剣に聞いてくれた。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 29 年 8 月 8 日（金） 12：40 ～13：40	
実施場所	機械工学科 4 年教室	
実施形態	①講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	機械工学科 4 年 34 名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	機械工学科 教授 田畑 隆英	所属：株式会社南光 代表取締役社長 上田平孝也氏 坂元輝男氏（本校昭和 59 年卒 17 期生）
実施内容	鹿児島県内企業への就職促進を目的として、機械工学科 4 年生 34 名に対し、株式会社南光の代表取締役社長上田平孝也氏および本校機械工学科 OB の坂元輝男氏より、鹿児島で働くことの魅力についての講義が行われた。会社案内では、金属加工や半導体製造装置組立等、多彩な事業内容について説明があった。 県内企業で働く魅力として、食べ物がおいしく、人が温かく、言葉の心配も無く、方言で本音の話ができる。お互い様の精神があり、win-win の関係、上司との距離感が近い、中小企業ではルールを変更しやすく、自分の考えを具体化しやすい。環境を変えなくて良い、帰省費用がかからない。 また、働くことについて、自分のやりたいことや自分の役割と人の役割を考えること。社長の幸せは、社員の成長。社会人としての必要スキルは、技術力、人間力、管理能力（コミュニケーション能力）。さらに、大切にしている事としては、しっかり挨拶（自分から目を見て笑顔で大きな声）、相手を認識、素直さ、聞いた話の実践、健康、前向きに取り組む姿勢、社会適合性であった。そして、人生を振り返って、大事なことは、困ったときにどれだけ引き出しをもっているか、先輩・後輩の関係、振り返り、良いことも悪いことも反省することであるという内容であった。 聴講した学生は、鹿児島県内に約 8 万社の企業があることに驚いていた。また、地元企業のメリット、地域貢献および社会人として大切なことを理解し、今後の地元での就職を検討する際の有益な機会となった。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

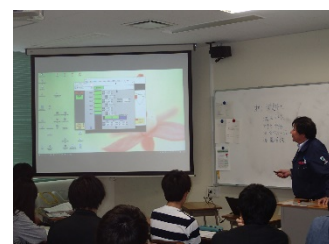
食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成29年 8月 8日（火） 12:40 ～ 14:10	
実施場所	鹿児島工業高等専門学校 情報棟 情報工学科4年教室	
実施形態	① 講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	情報工学科 4年 35名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	情報工学科 助教 原 崇	所属：株式会社南日本情報処理センター 役職：取締役 公共システム本部 本部長 氏名： 宮脇 孝一 様 役職：医療福祉本部 氏名： 深川 真央 様
実施内容	「IT関連に携わる社会人として」と題して、日本の人口問題から情報技術の重要性について、情報技術の過去と未来について、また、南日本情報処理センターで行っている業務内容について講演して頂きました。 情報技術の過去については、Intelの8ビットマイクロプロセッサである「i8080」、NECの「PC-9801」、任天堂の「ファミリーコンピュータ」など、教職員にとっては懐かしいと感じますが、学生にとってはあまり馴染みのないぐらい昔の話をして頂きました。学生は「そんな時代があったんだ」という様子で興味深く聞いていました。 情報技術の未来については、クラウド、IoT、AI、ディープラーニングなど、最新の情報技術についての話をして頂きました。学生にとっては、これから自分が関わるかもしれない技術なので、興味深く聞いていました。 業務内容については、南日本情報処理センターの組織や、実際に行っている業務内容についての話をして頂きました。 また、本校OGで入社2年目の先輩に、なぜ地元企業に就職したのか体験談を話して頂きました。学生はこれからの就職活動にて、どのように活動していけばよいのか考えるきっかけになったと思います。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成29年 8月 9日（水） 11:00 ～ 11:40	
実施場所	鹿児島工業高等専門学校 電気電子工学科4年教室	
実施形態	① 講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	電気電子工学科 4年 32名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	地域共同テクノセンター 特任教授 楠原 良人	所属：(株)栄電社 役職：代表取締役社長 満石公一 様
実施内容	鹿児島高専テクノクラブ会員である(株)栄電社に「(株)栄電社における業務と新エネルギー事業の紹介」と題して、パワーポイントにより電気電子工学科4年生 32名に特別講義をして頂いた。同社は、鹿児島市下荒田町に本社を置き、5カ所の県内事業所を持つ、県内有数の電気計装の企業である。主な事業は、上下水道電気計装、プラント電気計装、自動コンピュータ制御、自家用電気工作物施工・保守管理を得意とする電気分野と制御分野の地元企業である。本校からは、数名の卒業生が入社しており、電気工学科2期生は役員として在籍している。 講義では、下水道電気計装プラントによる電気計装技術の現状と熊本県内の実働システムについて、シーケンサの遠隔制御を用いたリアルタイム制御による監視技術や遠隔画像処理の動画が紹介され、学生は、制御工学やシーケンス制御の講義・実習と関連することから興味深く聴講していた。講義の後半では、現在、同社が研究開発に取り組んでいる新事業「バイオマス発電システムの研究開発」についても触れて頂き、近年の新エネルギー技術について、習得するきっかけとなった。最後に同社の会社概要、業務内容などの紹介があり、COC+事業における地元企業の魅力を知ることができたと思われる。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

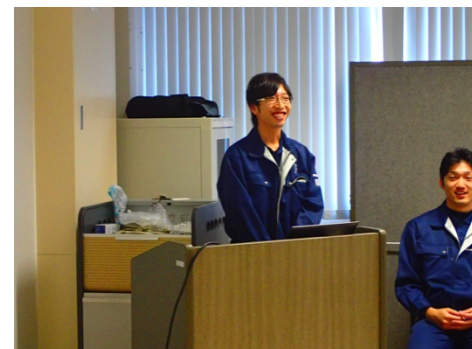
食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 29 年 8 月 9 日（水） 12：40 分 ～14：00 分	
実施場所	本校教室	
実施形態	① 講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	都市環境デザイン工学科 1 年 43 名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	都市環境デザイン工学科 教授 堤 隆	所属：株式会社大進 役職：技術第二部設計四課長 氏名： 濱田 貴光
実施内容	まず、ご自身の自己紹介を通して技術者としてのキャリアパスについて説明された。 次に、建築と土木についての違いを説明され、土木事業の仕事の流れについて説明された。さらに、株式会社大進の業態である総合建設コンサルタントの土木事業における役割について説明された。 さらに、鹿児島県の観光地である曾木の滝における工事の事例を紹介され、本校都市環境デザイン工学科において開講される科目との関連について説明された。 最後に、技術士の制度について説明され、本校学生に対する取得の仕方、取得によるメリットについて説明された。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

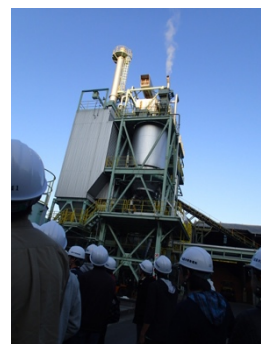
食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成29年 11月8日（水） 14:40 ～ 16:10	
実施場所	株式会社九州タブチ	
実施形態	① 講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	電気電子工学科 3年 43名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	特任教授 楠原 良人 電気電子工学科 助教 垣内田 翔子	所属：株式会社九州タブチ 役職・氏名：総務部総務課責任者 竹内 亮太 氏 役職・氏名：技術グループ生産技術課 中馬 大輝 氏
実施内容	鹿児島高専テクノクラブ会員である株式会社九州タブチの総務部総務課責任者竹内氏と技術グループ生産技術課中馬氏をお招きし、電気電子工学科3年生43名が特別講義を受講しました。 地元にある企業が、高い技術を持っており、社会でよく使われている部品の一貫製造を行なっている事を知ることができました。また、卒業生がどのような仕事を担当しているのか、具体的な業務内容をお話くださった事で、これからの将来に向けたロールモデルを身近に感じることができました。 業務内容の紹介だけでなく、これから就職について考える3年生の学生に対して、自らの体験を元にどうして株式会社九州タブチに就職するに至ったかを語っていただいた事で、学生達もこれからの自分の働き方を考えるきっかけになったようです。これからインターンシップや就職に向けて企業の情報を調べる中で、どのようなポイントに自分が魅力を感じるかを考えるととても良い機会になりました。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

霧島木質発電株式会社・霧島木質燃料株式会社 見学		
実施日時	平成29年 11月 15日（水） 14:40 ～ 17:10	
実施場所	霧島木質発電株式会社	
実施形態	① 講義・講演 ②ゼミ形式 ③ <u>工場・現場見学</u> ④現地実習	
対象学生	電気電子工学科 3年 42名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	電気電子工学科 助教 戸 健一 助教 垣内田 翔子	所属：霧島木質発電株式会社 役職：総務課 増岡様
実施内容	鹿児島高専テクノクラブ会員である霧島木質発電株式会社・霧島木質燃料株式会社を電気電子工学科3年生42名が訪問しました。森林の再生を念頭に置いた、持続可能な資源を使った発電手法についての取り組みについて、話を聞くことができました。 発電所を実際に見学するのは初めてという学生も多く、とても興味深く話を聞いていました。木材の購入から半年以上の時間を経て発電に使用することに驚いたり、排気ガスの浄化、水の再利用まで考えた設備が備わっているなど、発電技術以外にも様々な知識・技術が必要であることを実際に見学することができました。また、発電燃料の購入から全て、地産地消により発電が行われており、発電所と言っても、それぞれの発電所が持つ強みが違うことをお聞きし、学生には発電コンセプトについても、考えるきっかけになったようでした。学校で聞く、電験などの資格を持った方が、実際にどのような仕事をされているのかについてもお聞きすることができ、今勉強している内容が、実際の仕事に直結する事を知る良い機会となりました。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成29年11月22日（火） 14:40 ～ 16:10	
実施場所	鹿児島工業高等専門学校 機械工学科棟 情報工学科3年教室	
実施形態	① 講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	情報工学科 3年 45名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	情報工学科 准教授 新徳 健 助教 原 崇	所属：鹿児島県サイバーセキュリティ協議会 役職：代表 氏名： 菊永 太志 様
実施内容	「ITエンジニアって・・・？」と題して、ITエンジニアについて、ITエンジニアの1日の風景、ITエンジニアのスキルについて講演して頂きました。 ITエンジニアについては、ITエンジニアの種類、ITエンジニアが行う開発プロジェクトの流れについてお話頂きました。 ITエンジニアの1日の風景については、ある会社員の1日の業務風景という設定で、出社時の朝礼から、デスクワークの風景、開発の風景、社内外でのミーティングの風景、現場での設置や設定の作業風景についてお話頂きました。 ITエンジニアのスキルについては、今のうちに何を学んでおくべきか、どんなエンジニアを目指せばよいのかについてお話頂きました。 講演後の質疑応答では、学生から積極的な質問があり、有意義な講演になりました。	

ITエンジニアの種類

エンジニアの風景(デスクワーク)

エンジニアの風景(デスクワーク:開発)

IT関連スキルスタック

講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 29 年 12 月 6 日（水） 14：45 分 ～16：20 分	
実施場所	鹿児島高専 合併教室	
実施形態	①講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	機械工学科 3 年 42 名 電気電子工学科 1 年 43 名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	機械工学科 准教授 小田原 悟	・日置市役所 総務企画部企画課 行政経営戦略係長 小園 秀作 氏 ・JX 喜入石油基地株式会社 計画部計画グループ 津之浦 聖也 氏 ・南国殖産株式会社 機械設備事業部アクアライフ課 東郷 優也 氏
実施内容	第 1 回目の地方創生特別講義と OB・OG による事例発表が行われた。最初に、日置市役所総務企画部企画課の小園氏が「地方創生～『人口減少』について考えてみよう」と題して 40 分講義頂いた。鹿児島県における人口減少や将来の就職についての話、日置市にある企業の事業概要の紹介等があった。続いて、本校 OB の事例発表として、JX 喜入石油基地株式会社及び南国殖産株式会社に就職した電気電子工学科卒 2 名の事例発表が夫々 15 分ずつあった。JX 喜入石油基地株式会社からは、今年入社 3 年目の津之浦 聖也氏が会社の概況や地元就職を選んだ理由、学生へのアドバイス等を話された。また、南国殖産株式会社からは、入社 1 年目の東郷 優也氏がエネルギー事業や情報通信・都市開発事業展開についての話があった。そして、鹿児島への U ターンを希望した理由や就職活動のこと、学生生活で重要なこと等を話していただいた。 学生は今回の講義や事例発表を興味深く聴講していた。今回の講演と発表を通じて、学生も地元の自治体や企業に興味を持ったようで、活発に質問も行われていた。地元企業に全国でもトップレベルの技術や設備をもつ企業・工場があることに驚いていたのが印象的であった。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 29 年 12 月 13 日（水） 15：00 ～ 17:30	
実施場所	株式会社飯塚製作所鹿児島工場	
実施形態	① 講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	機械工学科 3 年 40 名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	機械工学科 テクノ委員 准教授 小田原 悟 3 年担任 講師 渡辺 創 教授 田畑 隆英	所属：株式会社飯塚製作所鹿児島工場 役職：総務グループグループ長 氏名：飯干 友広 氏
実施内容	平成 29 年 12 月 13 日（水）、株式会社飯塚製作所鹿児島工場見学を行った。自動車用冷間鍛造部品の製作現場の見学であった。シートベルト用やエアバック用、エンジン用など各種部品の製造において大音響のプレス機械等を間近に見ることができた。製作工程の特許技術やプレスの金型の摩耗寿命、或いは外国人従業員のこと等について学生が活発に質問を行っていた。 今回の工場見学を通して 3 年生はものづくりの面白さを十分理解できたように感じた。今後の意欲に期待する。	

講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成29年12月14日（木） 13:00 ～ 17:00	
実施場所	日本特殊陶業株式会社 鹿児島宮之城工場	
実施形態	① 講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	電子制御工学科 3年 39名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	電子制御工学科 教授 新田 敦司 助教 瀬戸山 康之	所属：日本特殊陶業株式会社 鹿児島宮之城工場 役職：経営管理本部 総務部 宮之城工場管理課 副参事 氏名：安田 浩徳 氏
実施内容	工場見学では、まず初めに企業説明を行って頂いた。多くの学生が、日本特殊陶業株式会社が何をしている企業なのかを知らなかったため、スパークプラグの世界 No.1 シェアを持つということに驚きながら、熱心に説明を聞いていた。 その後、スパークプラグ製造工場内の見学を行った。工場内は自動化が進んでおり、大量の製品を製造しているのに工場内の作業員が少ないことに学生は驚いていた。また、工場内は整理整頓が行き届いており、現場で働く人たちが指さし確認を徹底している姿などを見て、安全管理に対する企業の意識の高さに感心したとの感想もあった。 今回の工場見学では、多くの学生が興味を持ちながら真剣に説明を聞き、見学をしていた。また、質問も活発に行っていた。4年生から始まる就職活動に向けて様々な企業への関心を引き出すよい機会となり、大変有意義なものになったと感じている。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成29年12月19日（火） 8:50 ～ 10:20	
実施場所	電子制御工学科4年教室	
実施形態	① 講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	電子制御工学科 4年 42名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	電子制御工学科 教授 島名 賢児	所属：株式会社キラ・コーポレーション 鹿児島研究所 役職：設計検証グループ グループ長 氏名： 松元 健太 氏
実施内容	平成29年12月19日（火） 電子制御工学科4年生42名に対して株式会社キラ・コーポレーション鹿児島研究所の設計検証グループ・グループ長である松元健太氏から「CAE解析による設計検証」というタイトルで講演があった。 株式会社キラ・コーポレーション鹿児島研究所が進めている3DCAD/CAEによる工作機械の最適設計に関する取組みについての説明であった。さらにCAE解析を行う上で授業で学んでいる材料力学や材料学の知識の重要性や、CAEによる様々な解析事例の紹介もあった。 最後に、地元で働くことのモチベーションやメリットなど、自らの経験をもとにした話などもあった。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 30 年 1 月 10 日（水） 14：40 ～17：30	
実施場所	鎌田建設株式会社本社、（株式会社ユピテル鹿児島）	
実施形態	① 講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	都市環境デザイン工学科 3 年 41 名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	都市環境デザイン工学科 助教 毛利洋子	所属：鎌田建設株式会社 役職：取締役副社長 氏名：鎌田 安典 氏
実施内容	鎌田建設株式会社で 30 分程、鎌田建設の企業説明と事業実績、その後、見学する建設現場についての説明を受けた。企業説明では、組織体制と総合建設業の職種と合わせて説明を頂き、また熊本地震の復旧工事に関わられた事業内容も紹介して頂いた。 建設事業以外でも、社会貢献として地域貢献活動の具体的な様子を紹介して頂いた。また、他業界と比較した建設業の特徴や、建設業界全体の傾向として、従事者の減少・高齢化、他業種に比べ女性従事者が少ない現状を具体的な数値を用いて説明して頂いた。さらに、建設現場での機器の技術進歩により無人化に近づいている様子等、今後の建設業界の将来像も動画を用いて紹介して頂いた。説明や紹介を受け、現場の印象が変わったと答えた学生もいた。 最後に、鎌田建設株式会社で進められている株式会社ユピテル鹿児島の増築工事の現場を見学した。株式会社ユピテルの企業概要の説明と増築工事の事業内容を、資料をもとに説明して頂いた。その後、現場内を自由に見学する時間を頂いた。学生は個々に生じた疑問を、その場で質問することができた。また、現場で作業をされている方々に、直接質問し、話を伺う機会にもなった。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成30年1月10日（水）14：40 ～ 16：10	
実施場所	鹿児島高専地域共同テクノセンター2階 共同研究・受託研究室	
実施形態	① 講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	電子制御工学科 3年 40名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	電子制御工学科 教授 新田 敦司	・霧島市役所 企画部企画政策課 企画政策グループ 西村 賢三 氏 ・株式会社キラ・コーポレーション 技術部 鹿児島研究所 設計検証グループ 安樂 怜生 氏 ・シチズン時計鹿児島株式会社 業務部 設備技術課 崎山 凌 氏
実施内容	平成30年1月10日（水）、電子制御工学科3年の学生40名に対して第2回地方創生特別講義とOB・OG事例発表を行った。 自治体の専門職員の講義を通じて地方創生事業について理解し、地方創生に関する特別講義と地元企業に就職したOB・OGの就業事例発表により、学生が地元の魅力及び地元企業の魅力と業務内容を知り、地元企業（産業）に興味を持ち、地元定着を図ることを目的としている。霧島市役所企画部企画政策課企画政策グループ 西村賢三氏に「地方創生-人口減少がもたらすもの-」、(株)キラ・コーポレーション技術部鹿児島研究所設計検証グループの安樂怜生氏とシチズン時計鹿児島(株) 業務部設備技術課 崎山凌氏がOBの事例発表を行った。 地方創生の重要性や地元企業で働く優位性についての講義を学生は熱心に聴講していた。 最後に、地元で働くことのモチベーションやメリットなど、自らの経験をもとにした話などもあった。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成30年1月19日（金） 13:00 ～ 14:30	
実施場所	鹿児島工業高等専門学校 情報工学科棟 情報工学科4年教室	
実施形態	① 講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	情報工学科 4年 36名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	情報工学科 助教 原 崇	所属・氏名：霧島市企画部企画政策課 企画政策グループ 西村 賢三 氏 所属・氏名：株式会社九州タブチ 生産管理課 江良 祐太 氏 所属・氏名：株式会社ペルテ 開発センター 鹿児島グループ 秋田 啓介 氏
実施内容	「平成29年度第2回地方創生特別講義とOB・OG事例発表会」として、霧島市の西村氏より「人口減少がもたらすもの」と題しての講話と、株式会社九州タブチの江良氏と株式会社ペルテの秋田氏に事例紹介をして頂きました。 西村氏からは、人口減少による影響と霧島市としての取り組みについてお話頂きました。 江良氏からは、ご自身が高専生だったときの体験談や仕事での考え方についてお話頂きました。特に、就職活動のときにご自分でポイントメントをとって、5度も会社見学に伺ったという体験談は学生にとって衝撃的だったようです。 秋田氏からは、就職活動について、何故その会社に就職したいと思ったのか、また、会社での働き方についてお話頂きました。 講演後の質疑応答では、学生から積極的な質問があり、有意義な講演になりました。就職か、進学かを考えるようになる4年生という時期に、このような話が聞けたことは、学生にとって非常に貴重な経験になったと思います。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 30 年 2 月 14 日（水） 14:45～16:35	
実施場所	株式会社ユピテル鹿児島	
実施形態	① 講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	情報工学科 3 年 45 名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	情報工学科 准教授 新徳 健 助教 原 崇	所属：株式会社ユピテル鹿児島 役職：人事部総務課長 氏名：上原 昭芳 氏
実施内容	株式会社ユピテル鹿児島での企業見学を行った。 まず会社概要の説明があり、その後 5 班に分かれて作業現場の見学を行った。 製品の製造工程やオフィスでのデスクワークの様子を見学した。 マイクロ波・無線通信が専門の企業であるが、近年では他の分野への参入も行っており、情報工学科にも関連する人工知能（AI）に関する製品もあり、実際に試すこともできた。 本校情報工学科の卒業生も在籍しており、現在の担当作業についての説明もあった。 また、上原氏より仕事を選ぶにあたっての心構えについても話して頂き、学生も興味深く聞いていた。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成30年2月14日（水） 14:40 ～ 16:10	
実施場所	都市環境デザイン工学科2年生教室	
実施形態	① 講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	都市環境デザイン工学科 2年 38名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	電子制御工学科 教授 宮田 千加良	所属：株式会社大翔 氏名：代表取締役社長 西山哲郎 氏、 執行役員 副社長 中俣敏朗 氏、 橋梁課長 福元光治 氏
実施内容	都市環境デザイン工学科2年生に対して株式会社大翔から地方創生特別講義を行っていただいた。会社の概要、経営理念では人口減少など地方創生も含めた説明がなされた。事業内容説明で、道路事業では道路環境問題・維持管理などについて、公園・都市計画業務では、緑地景観に関する取り組みについて紹介があった。また橋梁関連業務については本校16期卒業生である福元橋梁課長が、橋梁維持管理としての検査の方法などの実例を示しながら説明された。また、株式会社大翔で実施している奨学金制度についての紹介もあり、地元で働くことのメリットなどについても話された。 学生からは、橋の維持管理の他設計等も行っているのか、コンクリートの浮き剥離の原因は何か、などの質問があり、丁寧に回答していただいた。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成30年2月16日（金） 9:00 ～ 10:05 平成30年2月20日（火） 11:10 ～ 12:00	
実施場所	都市環境デザイン工学科4年教室	
実施形態	①講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	都市環境デザイン工学科 4年 31名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	電子制御工学科 教授 宮田 千加良 都市環境デザイン工学科 教授 堤 隆	日置市総務企画部企画課 行政経営戦略係主査 笠毛智子様 OB：株式会社サタコンサルタンツ 曾於支店 金尾 建志氏 株式会社 大進 薩摩川内支店 迫えみか様
実施内容	2月16日（金）、都市環境デザイン工学科4年生に対してOB・OGの就職事例発表を行った。 各々就職先の企業、概要、担当業務の紹介、就職を決めたいきさつ、仕事に対するやりがい等、現場のスライド等を多用して説明いただいた。また学生に対し、就職すると時間が無いので今のうちに資格を取っておくこと、勉強した内容はすべて必要であるなど先輩としての助言があった。また学生からもコンサルタントと建設業の違い、学校と企業どちらが楽しいかなど質問もあり、丁寧に回答されていた。 2月20日（火）、地方創生特別講義として日置市総務企画部笠毛智子主査より、日置市が地方創生事業について主に行っている定住促進事業と企業誘致を内容とする説明をしていただいた。建設関係へ就職する学生に地方自治体の建設行政に絡む地方創生事業をテーマとして講義いただいた方がより興味を持てたのかもしれない。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成 30 年 2 月 21 日（水） 10：35 ～11：35	
実施場所	鹿児島高専 機械工学科棟 2 階 機械工学科 4 年生教室	
実施形態	①講義・講演 ②ゼミ形式 ③工場・現場見学 ④現地実習	
対象学生	機械工学科 4 年 36 名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	機械工学科 准教授 小田原 悟	京セラ株式会社 鹿児島国分工場 総務部 労務 1 課 天野 慎 氏 OB：セラミックパッケージ 2 事業部 設計課 鳥丸 浩平 氏
実施内容	平成 30 年 2 月 21 日（水）、地方創生特別講義を行った。まず、京セラ株式会社鹿児島国分工場社員による総務部労務 1 課天野慎氏に 30 分講義をして頂いた。京セラ国分工場の概要や生産工場の様子、製品の種類の豊富さなど多岐にわたる説明があった。 続いて、本校 OB として、2013 年度本校機械工学科を卒業した鳥丸浩平氏には、設計業務についての具体的な説明の後、仕事に取り組む姿勢など社会人として基本的で大切なことを講義いただいた。OB の話ということで学生はかなり興味深く聞き入っていたようである。 また、仕事以外のレクリエーションや休暇の楽しみなど魅力的な話題もあった。就職活動については学習の成績はあまり可否に関係しない、一度工場見学に来て頂いて製品を見て興味を持ってほしい旨の説明があった。 学生は今回実施した特別講義を大変興味深く聴講していた。今回の講義を通じ、何人かの学生が地元の自治体や企業に興味を持ったようで、活発に質問も行われていた。地元企業に全国でもトップレベルの技術や設備をもつ企業・工場があることに驚いていたのが印象的であった。	



講義・講演・工場見学等実施報告書

大学改革推進事業（COC+）

食と観光で世界を魅了する「かごしま」の地元定着促進プログラム		
実施日時	平成30年 2月22日（木） 9:45 ～ 17:10	
実施場所	霧島市 国分シビックセンター多目的ホール	
実施形態	卒業研究審査会	
対象学生	情報工学科 5年生 35名	
担 当 者	鹿児島高専	企業・団体等
	情報工学科 5年担任 教授 玉利陽三 4年担任 助教 原 崇 3年担任 准教授 新徳 健	
実施内容	一昨年度よりCOC+事業の一環として、情報工学科学生の日頃の研究活動等の取組を広く地域企業や自治体に紹介し、地域企業が抱える課題と学生の研究テーマのマッチングを図ることで、インターンシップの推進を始め、学生が地域企業をより一層理解するための一助となればと考えて情報工学科5年生の卒業研究審査会を公開で実施している。 本年度は情報工学科5年生の卒業研究審査会を霧島市「国分シビックセンター多目的ホール」にて開催し、本校情報工学科3年生45名、4年生34名、専攻科生4名、教職員13名、地元企業の社長や技術者5名、保護者26名、他OG2名の164名が参加した。 卒業研究審査会で卒業研究の発表を行った5年生には大きな舞台での発表は貴重な経験となり、5年生以下の学生には将来自分が取り組む研究に触れることで、今後の勉学の意欲向上につながると思う。さらに地元企業に、本校のシーズを伝える良い機会となった。	



霧島市、日置市職員及び
OB・OG による地方創生特別講義
アンケート

特別講義(H29.12.6 14:40～16:10) 対象学科:機械工学科 3 年生

講師:日置市総務企画部企画課行政経営戦略係 小園 秀作 氏、

JX喜入石油基地株式会社計画部計画グループ 津之浦 聖也 氏

(平成 27 年 3 月電気電子工学科卒)

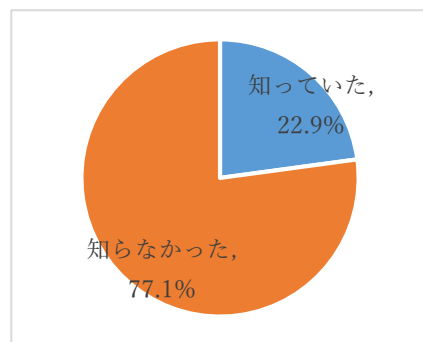
南国殖産株式会社機械設備事業部アクアライフ課 東郷 優也 氏

(平成 27 年 3 月電気電子工学科卒)

1. 国や自治体が行っている地方創生事業について知っていましたか。 ※複数回答可

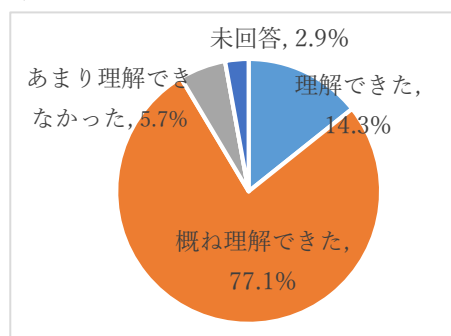
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	知っていた	8	22.9%
2	知らなかった	27	77.1%
	N(%ベース)	35	100

・授業・・・4 件
 ・マスメディア(新聞・雑誌・ネット等)・・・4 件
 ・両親・知人・・・1 件
 ・その他・・・0 件



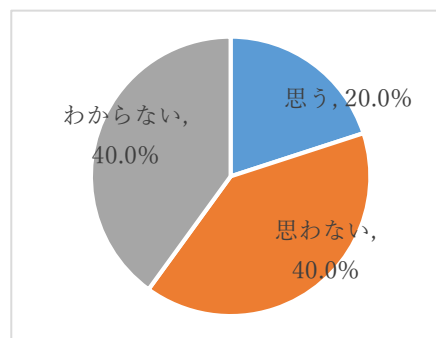
2. 地方創生特別講義を受けて、地方創生とは何か？を理解することができましたか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	理解できた	5	14.3%
2	概ね理解できた	27	77.1%
3	あまり理解できなかった	2	5.7%
4	理解できなかった	0	0.0%
5	未回答	1	2.9%
	N(%ベース)	35	100



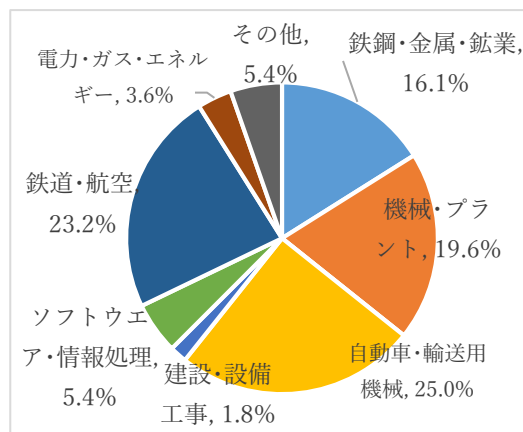
3. 地方創生特別講義及び OB 事例発表を受けて、将来、地元に残って働いてみたいと思いませんか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	思う	7	20.0%
2	思わない	14	40.0%
3	わからない	14	40.0%
	N(%ベース)	35	100



4. もし県内企業に就職するとしてどのような分野の産業に就職してみたいですか。※複数回答可

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	鉄鋼・金属・鉱業	9	16.1%
2	機械・プラント	11	19.6%
3	電気電子機器	0	0.0%
4	自動車・輸送用機械	14	25.0%
5	建設・設備工事	1	1.8%
6	ソフトウェア・情報処理	3	5.4%
7	鉄道・航空	13	23.2%
8	電力・ガス・エネルギー	2	3.6%
9	その他	3	5.4%
	N(%ベース)	56	100



5. 今回の特別講義(日置市による講演)を受けての感想を自由に書いてください。

- ・都会に行きたい気持ちと県内に残りたい気持ちが同じくらいなのでとても悩みます。
- ・高校卒業者の県外就職率が全国で鹿児島が1番と知って驚きました。
- ・県内にも多くの企業があり、驚いた。
- ・鹿児島を離れて職に就く人の数が多くて驚いた。
- ・県外にて仕事をしたいと思っていたが改めて考えてみようと思った。
- ・県内就職について学ぶことができた。
- ・県内の失業率も知りたかった。
- ・将来を改めて考える良い機会になった。
- ・鹿児島の人口が減っているということから地元に残って就職することも考えていきたい。
- ・県外に出る人はやっぱり多いなと思った。
- ・どんどん日本の人口が減っていることを改めて実感しました。
- ・人口がここまで減っているとは思わなかった。また、将来地元就職してみるのもいいのかなと思った。
- ・今までは県外しか頭になかったが県内も良いかなと少し思いました。
- ・地元の企業でも立派な企業があるんだなと思いました。
- ・県外で就職する人が多くて、県内より県外の方が会社がたくさんあると思った。
- ・県内にもともと就職しようとしていたので、話を聞くことができて良かった。
- ・地元にあんなに企業があるなんて知らなかった。少し興味が沸いた。
- ・地元にも素晴らしい企業がたくさんあることを知り、地元に残ることも考えようと思った。
- ・たくさんの若者が県外に行ってるんだなと思いました。
- ・地元で働くことも悪くないと思った。
- ・将来の就職先は絶対に県外と考えていたが、地元就職することで地方創生に貢献することが選択肢の1つになった。
- ・大変そうですが、やりがいがありそうで、面白そうと思いました。
- ・自分も県外に出るつもりだが、鹿児島に残り、盛り上げる人材も必要だと思った。

- ・人口減少は恐ろしい。
- ・地元はどう貢献しているかを理解することができた。

6. 今回の特別講義(OB 事例発表)を受けての感想を自由にご書いてください。

- ・学生のうちにやりたいことをしておこうと思いました。
- ・地元日本有数の専門性がある会社があるということを知って、都会だけじゃなくても、魅力のある仕事があるのだと思いました。また、今回の講演を聞いて、早く働きたいとも思いました。
- ・大企業やどこに行っても何があるか分からないし、企業や経済の研究はしっかりしようと思った。
- ・勉強はまだ終わらないという事実絶望しました。
- ・出生率の低下はこの先大変ということが分かりました。
- ・資格を取りたいと思った。
- ・同じく将来を考えさせられたが、同じ高専出身の方の話なのでより強く考えさせられた。
- ・地元就職するメリットを知ることができた。
- ・講義を聞いて、将来自分に合ったやりたい仕事をするためには、今やるべきことをゆとりを持って行う必要があると思った。
- ・名前を知っている企業でも事業の内容は分からなかったもので、とても勉強になった。
- ・試験のためだけの勉強は、就職してから大変そうだった。
- ・やりたいことを全力でやりたいです。
- ・高専卒の人がここまで地元に残って働いていることにとても驚いた。
- ・自分はアミュの近くに住んでいるので身近なところで南国殖産が動いているんだなと思った。
- ・先輩方はみんなしっかりしているなと思いました。
- ・事例を交えた話しは、リアルで分かりやすかった。参考になった。
- ・実際の仕事の様子を詳しく説明してくださったので、とても興味が沸いた。
- ・経験した話を多く語ってくださったので学ぶことが多かった。
- ・2名のOBの方は、自分の仕事に誇りを持っているように見えて、素晴らしいと思った。自分も素晴らしい仕事に出会えるように今から頑張っていきたい。
- ・県内企業に就職したいという気持ちが強くなりました。
- ・学生のうちにやるべきことが分かった。
- ・単位取得は大事だった。
- ・今の時期を有意義に使うべきだと思いました。

特別講義(H29.12.6 14:40～16:10) 対象学科:電気電子工学科1年生

講師:日置市総務企画部企画課行政経営戦略係 小園 秀作 氏、

JX喜入石油基地株式会社計画部計画グループ 津之浦 聖也 氏

(平成 27 年 3 月電気電子工学科卒)

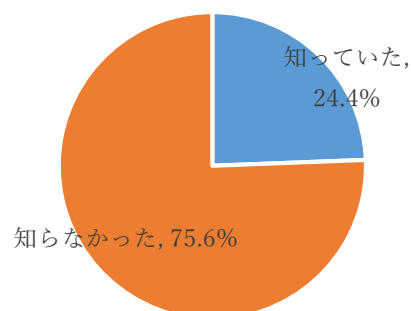
南国殖産株式会社機械設備事業部アクアライフ課 東郷 優也 氏

(平成 27 年 3 月電気電子工学科卒)

1. 国や自治体が行っている地方創生事業について知っていましたか。 ※複数回答可

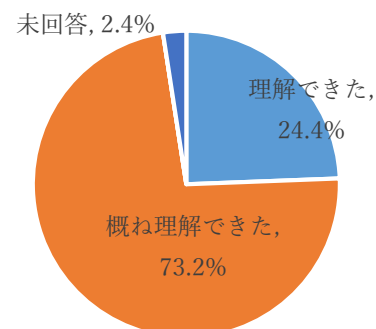
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	知っていた	10	24.4%
2	知らなかった	31	75.6%
	N(%ベース)	41	100

- ・授業・・・3 件
- ・マスメディア(新聞・雑誌・ネット等)・・・9 件
- ・両親・知人・・・2 件
- ・その他・・・0 件



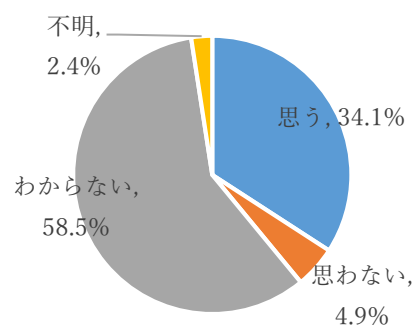
2. 地方創生特別講義を受けて、地方創生とは何か？を理解することができましたか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	理解できた	10	24.4%
2	概ね理解できた	30	73.2%
3	あまり理解できなかった	0	0.0%
4	理解できなかった	0	0.0%
5	未回答	1	2.4%
	N(%ベース)	41	100



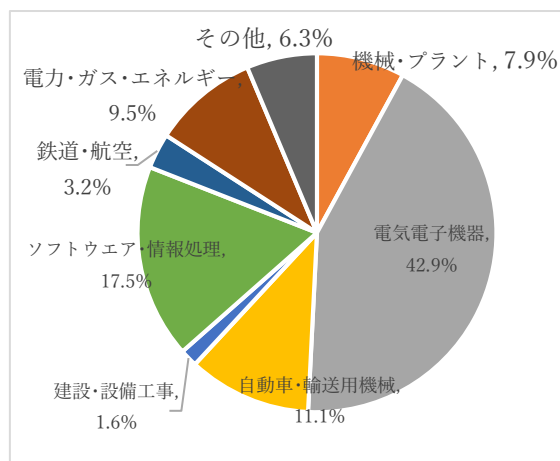
3. 地方創生特別講義及び OB 事例発表を受けて、将来、地元に残って働いてみたいと思いましたが。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	思う	14	34.1%
2	思わない	2	4.9%
3	わからない	24	58.5%
4	不明	1	2.4%
	N(%ベース)	41	100



4. もし県内企業に就職するとしてどのような分野の産業に就職してみたいですか。※複数回答可

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	鉄鋼・金属・鉱業	0	0.0%
2	機械・プラント	5	7.9%
3	電気電子機器	27	42.9%
4	自動車・輸送用機械	7	11.1%
5	建設・設備工事	1	1.6%
6	ソフトウェア・情報処理	11	17.5%
7	鉄道・航空	2	3.2%
8	電力・ガス・エネルギー	6	9.5%
9	その他	4	6.3%
	N(%ベース)	63	100



5. 今回の特別講義(日置市による講演)を受けての感想を自由に書いてください。

- ・日置市にある企業が分かりやすく紹介されていたのでこんな企業があるんだと思うことができた。
- ・大企業でも安定して仕事に就けるか分からないことを知ることができたので地方創生に協力したいと思った
- ・地元で働いている方々もたくさんいると分かり地元の仕事にも関心を持つことができた
- ・人口減少に対して何か自分にできることはあるのだろうかと思った
- ・人口減少について知っていたが考えていたよりも人口減少の数が多く驚いた
- ・自分一人の力が地域に力をつけられると聞いて地域に貢献するのも悪くないなと思った
- ・鹿児島県の人口減少や高校生の県外就職者数が激しくなっていることに衝撃を感じた。このまま鹿児島が衰退していくと思うと不安がよぎった。
- ・これからの日本は大変そうだと思った
- ・自分の地元の高限でもなにかしているのか気になった。日置市で時計を作っていることを初めて知った
- ・人口減少について真剣に考えてみようと思った・・・2人
- ・鹿児島県で行われている事業を知らなかったのでよかった
- ・少子化や高齢化を防ぐことで自分たちの地元が県、日本に関しても、発展や成長が見られるのだと思った。地元が発展していくためにできることを自分たちが精一杯したいと思った
- ・人口減少は地域を衰弱させていくので早めに解決しなければならないと思った。地域の結束が固まれば人口の流出は抑えられると思った。
- ・人口減少はとても深刻な問題だと思った。また、鹿児島県は特に人口減少が深刻なんだと思った
- ・地域の企業について今まではよく考えたことがなかったが、今回この話を聞いて改めて地元就職することにも考えてみようと思った。また、地方の人口が減っている理由に、大都市への進学・就職があって自分が育ってきた地元が衰弱していくのは寂しい気がするので、広い選択肢を持って自分の進路を決めていきたいと思う。
- ・人口減少問題の深刻さを改めて感じました・・・2人
- ・人口減少があるのは知っていたが数字として見ると多くて驚いた
- ・多くの企業がCSR活動を行っているということにすごく感心した
- ・自分が思っていた以上の人が県外就職をしていたことに驚きました・・・2人
- ・株式会社ユー・エム・アイの働き方取組みが進んでいると思いました

- ・出生率が減ってきていたり、鹿児島の高卒の人たちの多くが県外就職していることから、鹿児島の人口減少につながっているということがわかった
- ・シチズンという時計のことをはじめて知った
- ・人口減少による問題や地元就職についてよく理解できた
- ・少子高齢化が進むと自分たちが大変になってくるので子どもを残すことは大切だと思った
- ・今回の特別講義を受けて高専を卒業して就職するときは自分にあった職業を選ぶべきだと思いました。県内なのか県外なのか、大企業なのか中小企業なのか慎重に考える必要があると思いました。全国だけでなく鹿児島県も人口減少が起きているなかで、地域の活力低下が今後加速していかないようにする為に自分は地元の企業に就職したいと強く思いました。自分の生活にあった企業をしっかりと調べて入社した後に「自分に合わないな」「もっと違うところで自分の力を活かせるのではないか」などと思われぬように自分の満足のいく会社に入社したいです。
- ・仕事の中で働くことに工夫がされていることを知った。誕生日休暇などがあると知ってさらに仕事に興味を持つことができた。今回の授業をもとに、自分がなりたいもの、就きたい仕事をしっかりと知って自分にあった企業につきたい
- ・地域の為に色々頑張ってくれる人がいるんだと気づくことができた。どこの仕事に就くかまだ決めていないがたくさんの人の役に立てるように頑張りたい。
- ・鹿児島が県外就職率が1位だと聞き驚いた。人口減少による問題は自分にも関係することなので、地元での就職も考えてみたいと思った。
- ・鹿児島にも企業があることにびっくりした。
- ・人口減少などを防ぐために色々な活動をしていることを初めて知った。
- ・「人口減少」ということがよくテレビで言われているが改めて数値を用いて説明されるとよく頭の中に入ってきた。
- ・人が多く集まるような所に大企業があると思っていた。地元どんな企業があるのか調べてみようと思った。
- ・県外就職が鹿児島県が1位と聞いて驚いた。人口減少は、自分たちにとって関係ないものではなくとても身近な問題だと気づかされた。
- ・地元にも大きな企業がたくさんあることを知れてよかった。その大きな企業もそれぞれやっていることが全然違っていて県外ではなく県内で考えるだけでも大変だなと思った。
- ・就職したい人気の会社でも人工知能の自動化が進んでいて正社員の雇用が少なくなっていた
- ・人口減少がかなり進んでいるんだなと思った
- ・地元の企業への就職を考えてみようと思った

6. 今回の特別講義（OB 事例発表）を受けての感想を自由に書いてください。

- ・自分達も将来はこの様なことをするのかと理解することができた
- ・地方にも高専からの就職があることを知れてよかった
- ・地元で人の役に立つ仕事に就くのもいいと思った
- ・明確な目標を持って自分の考えを持って行動しようと思った
- ・鹿児島の企業に就職してみようと思った
- ・苦労の中に面白さを見つけていて凄いなと思った
- ・県内の企業も地域・故郷に貢献すべく努力しているのだと感心した。自分にできることは何か考えながら、就職先や職種について学んでいきたいと思う
- ・大企業＝安全というわけではなさそうだったので、大変そうだった
- ・卒業して終わり、就職して終わりではなく、その先のことが本番なんだと思った
- ・就職しても勉強すべきことはたくさんあると分かった。自分のやりたいことをできることは素晴らしいことだと思った
- ・大きな企業でもつぶれることがあるということが分かった・・・2人
- ・地元貢献するという思いではどのような仕事をしていても同じだと思う。なので、どのようなことであっても地元貢献するという思いを大切にしていきたいと思う
- ・県内の企業の説明を受けて、自分が思っていた以上に魅力を感じました
- ・地元企業にも関心を持っていきたいと思いました
- ・地元で働くのもいいと感じた。鹿児島には素晴らしい企業がたくさんあるんだと思った
- ・先輩のお話を聞いてすごくためになった。やはり基礎が大事なので、日頃の勉強を頑張っていこうと強く思う。更に、資格が大事ということだったので、テスト勉強に加えて資格を取るための勉強にも力を入れていきたいと思った。社会人になってからは自分の時間はあまりなさそうだったと思うので、今のうちにやりたいことはやっておこうと思った
- ・地元にも貢献することも大切だと感じました。
- ・基礎がすごく大事だとおっしゃっていたので、今のうちに基礎をみがきたいと思った
- ・高専を卒業した先輩の話はとてもためになりました。特に「単位はゆとりを持って修得すること」、「がむしゃらは学生の特権」というアドバイスは大事にしたいです。
- ・仕事をしながらの資格勉強は大変だと思うので方向性を決めて取っていききたいなと思いました
- ・先輩方2人はどちらもエネルギー関係の企業の話だったのであまり興味がなかったのですが、こういう仕事もあるのだなと思いました。
- ・大型タンカーはニミッツ級、J・R・フォード級空母と同じ規模の大きさと知って驚いた
- ・1年のうちからしっかりと自分を持って、学習・成長できるようにしたい。
- ・仕事は楽しいだけでなく大変な面もあると知ったので今の基本の勉強をしっかりしたいと思った。
- ・今回の特別講義を受けて基礎は大切ということが再確認できました。高専の強みは高校や大学と違って専門に特化していることだということです。そのために今分らない基礎を無くしていくことが大事だと思いました。就職すると色々なことを経験できたりチーム一丸と

なり物事を成り遂げる面白さがある反面、責任が伴ったり学ぶことがたくさんあったりと、大変だと思うけど自分の仕事に生きがいを感じて頑張れたらと思いました。

・「都会だけでなく地元にも目を向けること」という言葉が心に残った。そして、仕事についての面白さで、班で一丸となって成し遂げる点に本当に仕事に興味を持った。更に仕事の中でたくさんの企業と企業が関わっていることを改めて知った。

・勉強をしないといけない理由が具体的に分かった。これからはもっと頑張らないと思う。今できることを精一杯して社会人になったときに後悔しないようにしたい。

・実際に高専を卒業して働いている方の話を聞くことができてとても参考になった。自分も今のうちから将来のことを考えて勉強などの努力を怠らないようにしようと思った。

・県内でも全然悪くないと思った。

・地元の企業の就職もいいと思った。

・「地元企業で働けば良かった」と言う人が多いことに驚いた。僕は県外就職しか考えていなかったけれど県内就職も考えてみようと思った。

・大企業でも失業の不安はあると思った。

・早く働きたいと思った。先輩方の意見として基礎的な勉強が大事だと聞いてもっと今できる勉強を頑張ろうと思った。学生のうちにできることを一生懸命やって将来の仕事に役立てたい。

・OBの人たちも元々は違う企業を目指していたり今と違う企業で働いていて転職したりしていて大変だと思った。自分が就職するときは自分になりたいだけでなろうと思ってても大変だということを知ったので自分に向いているのか、企業の状況もしっかりと見て考えていきたいと思った。

・色々な仕事があるんだなと思った。

・今までは県外就職のほうが良いと思ってたけど、県内就職でも県外就職と同じような仕事ができることを知った。また、仕事にも基礎がとても大事で専門の仕事は基礎がしっかりとしていないとだめだと思った。資格はとても大事で頑張っていきたいと思った。

・会社の面白さと大変さを知った。

・仕事の楽しさ、難しさについて知った。

特別講義(H30.1.10 14:40～16:10) 対象学科:電子制御工学科3年生

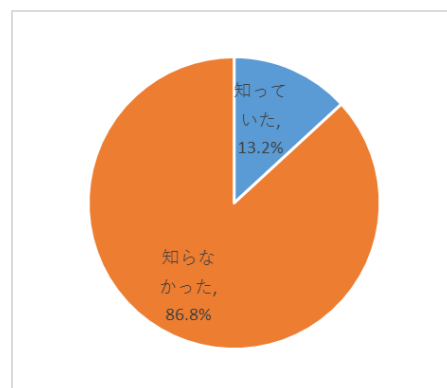
講師: 霧島市役所 企画部 企画政策課 企画政策グループ 西村 賢三 氏、

・シチズン時計鹿児島株式会社 業務部 設備技術課 崎山 凌 氏

・株式会社キラ・コーポレーション 技術部 鹿児島研究所 設計検証グループ 安樂 怜生 氏

1. 国や自治体が行っている地方創生事業について知っていましたか。 ※複数回答可

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	知っていた	5	13.2%
2	知らなかった	33	86.8%
	N(%ベース)	38	100



1.で知っていたと回答した方の内訳 (※回答・・・5件)

■授業・・・2件

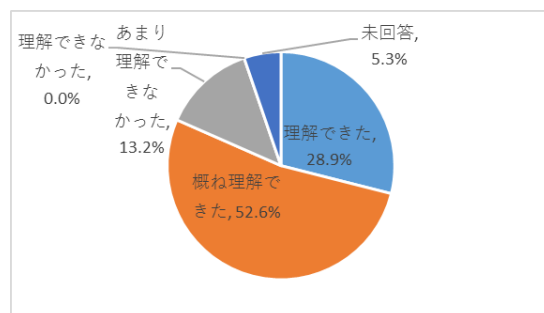
■マスメディア(新聞・雑誌・ネット等)・・・2件

■両親・知人・・・1件

■その他・・・0件

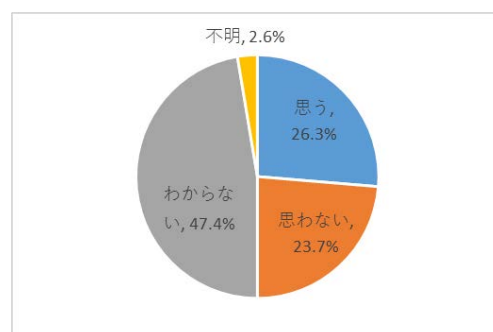
2. 地方創生特別講義を受けて、地方創生とは何か？を理解することができましたか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	理解できた	11	28.9%
2	概ね理解できた	20	52.6%
3	あまり理解できなかった	5	13.2%
4	理解できなかった	0	0.0%
5	未回答	2	5.3%
	N(%ベース)	38	100



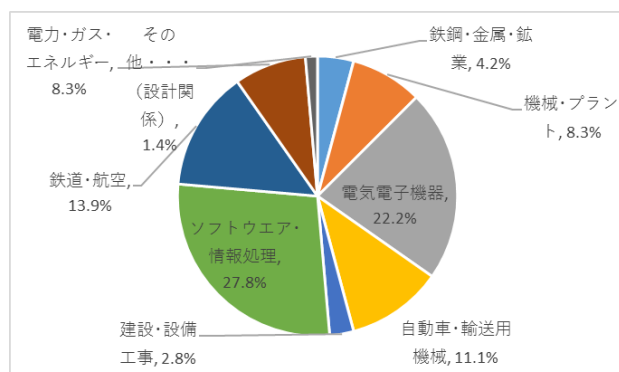
3. 地方創生特別講義及び OB 事例発表を受けて、将来、地元に残って働いてみたいと思いませんか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	思う	10	26.3%
2	思わない	9	23.7%
3	わからない	18	47.4%
4	不明	1	2.6%
	N(%ベース)	38	100



4. もし県内企業に就職するとしてどのような分野の産業に就職してみたいですか。※複数回答可

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	鉄鋼・金属・鉱業	3	4.2%
2	機械・プラント	6	8.3%
3	電気電子機器	16	22.2%
4	自動車・輸送用機械	8	11.1%
5	建設・設備工事	2	2.8%
6	ソフトウェア・情報処理	20	27.8%
7	鉄道・航空	10	13.9%
8	電力・ガス・エネルギー	6	8.3%
9	その他・・・(設計関係)	1	1.4%
	N(%ベース)	72	100



5. 今回の特別講義(霧島市による講演)を受けての感想を自由に書いてください。

- ・地元で就職することがどのように地元の役に立ち自分にメリットがあるのか良く理解できた。自分に合った就職の形を見つけようと思った。
- ・幼稚園の数が少ないなど福祉関係を主に改善すれば人口減少はおさえられると思った。
- ・鹿児島県の出生率は意外と多いんだなと思った。
- ・自分が思っていた以上に少子高齢化が進んでいた。解決法は良くわからないが、市も色々していたので少しでも貢献したいと思う。
- ・地方創生についてなんとなく理解することができた。自分は、県外に出たいと思っているが、仕事上で鹿児島と関わることもあると思うので、そのときは積極的に取り組んでいけば鹿児島のためになるかなと思った。
- ・少しだけ理解することができた。
- ・地元企業への就職もいいかなと思った。
- ・市の人口減少を防ぐために、色々な活動をしていることが知れて、地元の就職も悪くないと思いました。
- ・このままだと僕がおじいちゃんになったときに貧乏になるなと感じた。
- ・もっと地元の活動を知って少しでも貢献できるようになりたいです。
- ・霧島市の取り組みについて知ることができて良かった。
- ・地元企業に就職するだけで地域貢献が行えるのなら、地元就職も悪くないなと思った。
- ・市もいろいろしてるのだなと思った。
- ・身近な部分でいろんな事業が行われていてその部分に少しでも協力できるようにしたいと思った。
- ・人口減少が起きないようにする。
- ・自分は元々、地元で働きたいと思っていたが、今回の講演を聞いてよりその思いが強まった。
- ・内容の深い貴重な話を聞くことができて良かったと思う。霧島市の人口を増やそうとする取り組みや企業のリストなど将来に役立つ内容だった。
- ・人口減少に関しては自分はどうすることもできないけど、霧島市全体が努力しているのはすごいことだと思いました。

- ・今回の講義の誘致企業ガイドブックを読んで霧島市に予想以上の企業があり驚いた。自分でもしっかりと情報を集めることが必要だと思った。
- ・県内での就職先もいろいろあるんだと思いました。
- ・霧島市は、就業者を確保できるように色々な事業を催していることが分かった。学力レベルの向上を図っていると思った。
- ・今回の講義を受けて第一に思ったのは、子供をたくさん持ったほうが、良いなということでした。
- ・色々と地域が活発になるように取り組んでいることを知って驚いた。
- ・人口は減少するのも問題だけど、増加するのも問題なので、難しいなと思いました。
- ・地元に残ることで、何かできることがあればいいと思いました。
- ・人口減少の問題はもっと考えないといけないと思った。
- ・出生率の低い関東地区への流出が増えて、人口減少が加速していることを初めて知った。
- ・県内の企業について興味を持つことができた。
- ・人口減少が都心の方がひどいということを知り驚いた。
- ・県や市が予想以上に取り組みを行っているのを知って驚いた。
- ・子供をたくさん作ろうと思った・・2人
- ・人口減少について、話をしていたが 2060 年には、一億人きることや、福岡県なみの人口になることに恐怖を感じた。
- ・色々な人の考え方を知る良い機会だった。

6. 今回の特別講義(OB 事例発表)を受けての感想を自由に書いてください。

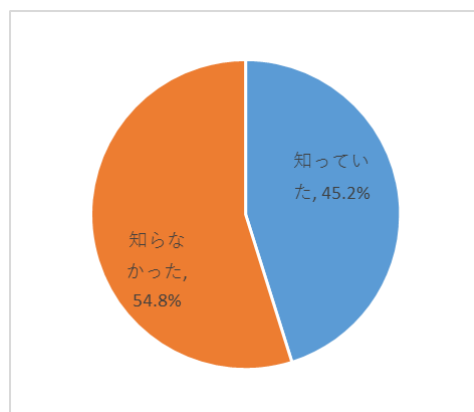
- ・自分は就職を考えているので、とても身になった。具体的な話を OB の方から聞くことができ良かった。
- ・やはり自分も仕事中心の生活より、プライベートを充実させるという考えも良いと思うが、仕事をする中でやりがいを見出していくことも大切かなと思った。
- ・やりたい仕事を見つけないといけないわけでもないのかと思い、確かにと思った。
- ・やっぱり地元もいいなと思った。自分はどうなるか分からないが今回の話をいかして、今後も決めていきたい。
- ・プライベートの充実のために仕事をするという考えは新しくよいと思った。
- ・もう一度、仕事というものについて考えることができた。
- ・就職への考えが少し変わりました。
- ・実際に地元で働かされている先輩方の実体験を聞くことができて貴重な機会になった・・3人
- ・自分の考えをしっかりと持って就職や進学を決めようと思った。
- ・自分も地元で就職したいと思いました・・2人
- ・将来入りたい企業の明確なイメージを作ることができたと思う。
- ・一番近い人の話が聞けて良かった。
- ・身近な部分で働くことによって、地域の貢献にもつながるということで少し興味を持てた。
- ・県内企業も良いと思った。

- ・働くだけではないことを知ることができた。
- ・地元に残ることも少しは良いことだと感じました。
- ・県内就職の利点が良くわかった・・・2人
- ・プライベートの充実などいろいろなことを考えさせられた講義だった。
- ・地元企業のメリット・デメリットを知ることができて良かった・・・2人
- ・為になったので良かった。
- ・先輩たちはすごいなと思った。
- ・有意義だった。
- ・県外に出たい気持ちが強かったがそれが全てでないと思った。もう一度考えてみようと思った。
- ・将来の目的をプライベートに置くか仕事に置くか、しっかり考えるべきだなと思いました。とりあえず勉強は大事だなと思いました。
- ・実際の仕事内容が聞けて参考になりました。
- ・県外に出てみてから考えようと思った。
- ・「プライベートを充実させるための手段としての仕事」と言う考えは面白いと思った。
- ・自分の進路についての考えを深めることができた。
- ・地元で働いても県外で働いてもメリット・デメリット両方存在すると聞いたので、就職するときはそれらをしっかり考慮したうえで決めることにしたい。
- ・地元もいいなと思った。
- ・先輩の話を聞いて就職と言うものを身近に感じた。
- ・地元就職もいいなと思った。
- ・給料や勤務地等よりも仕事の内容に重きを置いて就職先を探すようにしようと思った。

特別講義(H30.1.19 13:00～14:30) 対象学科:情報工学科4年生
 講師: 霧島市役所 企画部 企画政策課 企画政策グループ 西村 賢三 氏、
 ・株式会社九州タブチ 生産管理課 江良 祐太 氏
 ・株式会社ペルテ 開発センター 鹿児島グループ 秋田 啓介 氏

1. 国や自治体が行っている地方創生事業について知っていましたか。 ※複数回答可

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	知っていた	14	45.2%
2	知らなかった	17	54.8%
	N(%ベース)	31	100

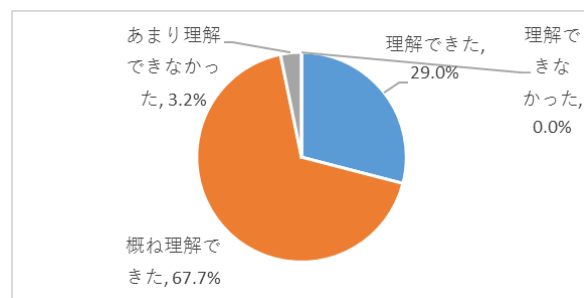


1. 知っていたと回答した方の内訳 (※回答・・・14件)

- 授業・・・8件
- マスメディア(新聞・雑誌・ネット等)・・・4件
- 両親・知人・・・0件
- その他・・・1件
- 不明・・・1件

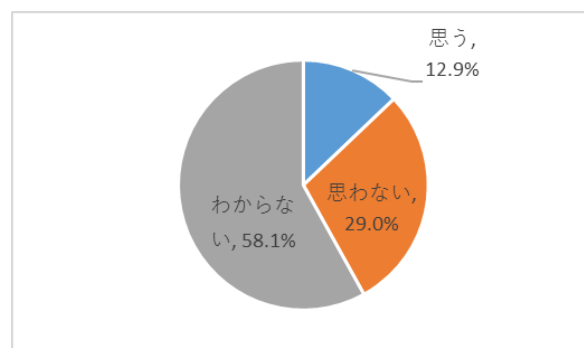
2. 地方創生特別講義を受けて、地方創生とは何か？を理解することができましたか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	理解できた	9	29.0%
2	概ね理解できた	21	67.7%
3	あまり理解できなかった	1	3.2%
4	理解できなかった	0	0.0%
	N(%ベース)	31	100



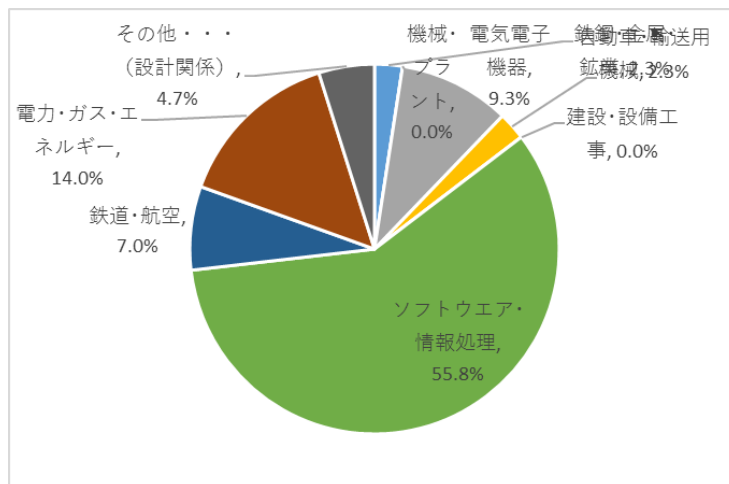
3. 地方創生特別講義及び OB 事例発表を受けて、将来、地元に残って働いてみたいと思いませんか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	思う	4	12.9%
2	思わない	9	29.0%
3	わからない	18	58.1%
	N(%ベース)	31	100



4. もし県内企業に就職するとしてどのような分野の産業に就職してみたいですか。※複数回答可

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	鉄鋼・金属・鉱業	1	2.3%
2	機械・プラント	0	0.0%
3	電気電子機器	4	9.3%
4	自動車・輸送用機械	1	2.3%
5	建設・設備工事	0	0.0%
6	ソフトウェア・情報処理	24	55.8%
7	鉄道・航空	3	7.0%
8	電力・ガス・エネルギー	6	14.0%
9	その他・・・(設計関係)	2	4.7%
10	不明	2	4.7%
	N(%ベース)	43	100



5. 今回の特別講義(霧島市による講演)を受けての感想を自由にご書いてください。

- ・人口が減ってきててやばいと思った。
- ・人口の減少がどう影響があるのか知れた。
- ・人口が少なくて大変だと思った。
- ・いろいろな人口減少に対する対抗策が練られているんだと感じた。
- ・人口減少について学べた。
- ・霧島市情報誌を見ようと思いました。
- ・とても分かりやすい講演で未来の霧島に我々のような人材が必要なのが理解できた。取り組みもとても先進的で、地方創生に力を入れているのが分かった。
- ・講義を受ける前は、一際地方創生については興味はなかったが、今回の講義を受け少し興味を持った。初めて知る魅力的な取り組みがいくつかあった。
- ・人口が減っていくのに驚いた。
- ・人口減少はやはり重大な問題であるなと改めて感じました。
- ・日本の現状が分かった。
- ・奨学金関係の話に興味を持った。

- ・人口減少の危機
- ・日本の人口が増えればいいと思った。
- ・かなり参考になるお話を聞くことができてとても良い時間でした。
- ・少子化が深刻なの分かった。
- ・人口減少という大きな問題に対して、霧島市の取り組みが良くわかった。

6. 今回の特別講義(OB 事例発表)を受けての感想を自由に書いてください。

- ・中小企業には中小企業の良さがあるんだと思った。
- ・どのように就職活動を行っているのか事例を知ることができた。
- ・中小もいいと思った。
- ・OB だけでなく OG の方の話も聞きたかった。
- ・就活の様々なアプローチを学べた。
- ・企業選びの新しい基準が見つけられました。
- ・業務内容が自分の知っていたようなことではなかったもので、新たな刺激を受け、視野が広がりとても良い経験になった。
- ・早め早めの行動を心がけたいと思った。
- ・しておいたほうが良いことなど具体的に聞けて良かった。
- ・実際に地元企業で働いてみることのイメージがついた。
- ・自分たちがなぜその会社にしたのか、また、今会社で具体的にどんなことをしているのか話してもらえて分かりやすかった。
- ・県内企業もしっかり調べてみようと思った。
- ・未だ就職したい企業が明確に決まっていないので決めたいと思いました。
- ・具体的な話が多くて参考になりました。
- ・江良さんの講義を聞いて、地元に残る気は一切しなかったが、魅力を少し感じた。仕事を楽しく行っていることを感じられた。
- ・就活の方法等が分かった。
- ・面白かった。
- ・地元企業についてどのようなものがあるか具体的には知らなかったが、今日話を聞いてみて地元でも良い企業があるんだと思った。
- ・企業の選び方などが参考になった。
- ・実際に企業に見学を行うことも考えて、企業研究を行おうと思った。
- ・県内か県外で就職を迷っていますが、今回の説明で大企業でなくても中小企業にしかない魅力を学んだので今後の就職活動に活かしていきたいと思った。

地方創生 特別講義

(①H30.2.16 9:00～10:00 ②H30.2.20 11:10～12:00)

対象学科:都市環境デザイン工学科 4 年生

①講師: 株式会社 サタコンサルタンツ 曾於支店

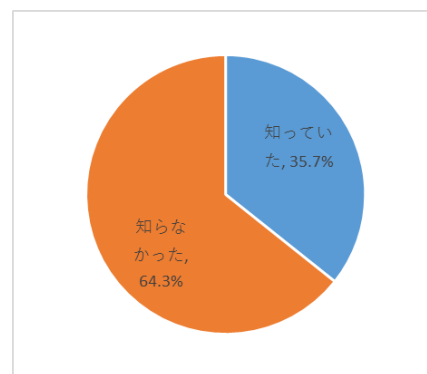
曾於支店技術課 第一グループ 技師 金尾 建志 氏、

株式会社 大進 薩摩川内支店 技術第三部 施工管理課 迫 えみか 様

②講師: 日置市総務企画部企画課 行政経営戦略係主査 笠毛 智子 様

1. 国や自治体が行っている地方創生事業について知っていましたか。 ※複数回答可

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	知っていた	10	35.7%
2	知らなかった	18	64.3%
	N(%ベース)	28	100



1. 知っていたと回答した方の内訳 (※回答・・・10件)

■授業・・・3件

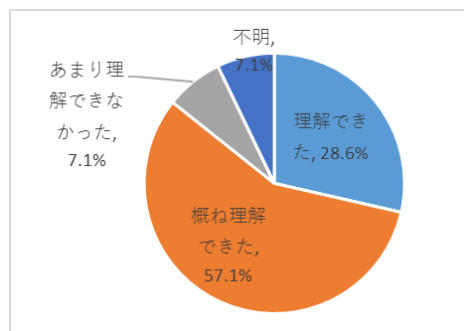
■マスメディア(新聞・雑誌・ネット等)・・・6件

■両親・知人・・・1件

■その他・・・0件

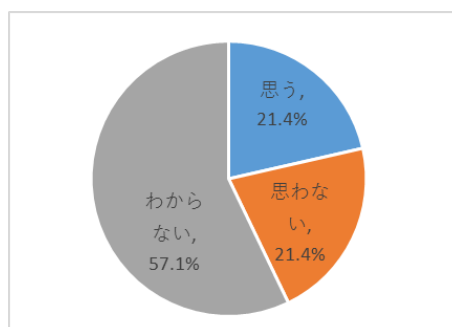
2. 地方創生特別講義を受けて、地方創生とは何か？を理解することができましたか。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	理解できた	8	28.6%
2	概ね理解できた	16	57.1%
3	あまり理解できなかった	2	7.1%
4	理解できなかった	0	0.0%
5	不明	2	7.1%
	N(%ベース)	28	100



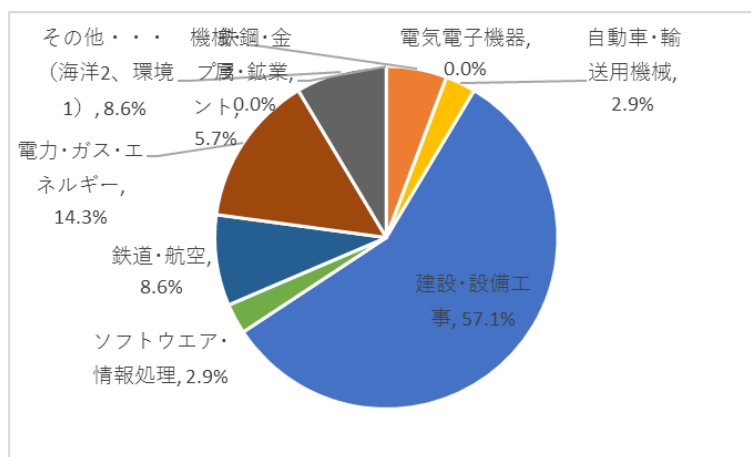
3. 地方創生特別講義及び OB 事例発表を受けて、将来、地元に残って働いてみたいと思いましたが。

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	思う	6	21.4%
2	思わない	6	21.4%
3	わからない	16	57.1%
	N(%ベース)	28	100



4. もし県内企業に就職するとしてどのような分野の産業に就職してみたいですか。※複数回答可

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	鉄鋼・金属・鉱業	0	0.0%
2	機械・プラント	2	5.7%
3	電気電子機器	0	0.0%
4	自動車・輸送用機械	1	2.9%
5	建設・設備工事	20	57.1%
6	ソフトウェア・情報処理	1	2.9%
7	鉄道・航空	3	8.6%
8	電力・ガス・エネルギー	5	14.3%
9	その他・・・(海洋2、環境1)	3	8.6%
	N(%ベース)	35	100



5. 今回の特別講義(霧島市による講演)を受けての感想を自由にご書いてください。

- ・地方が活性化するように、できることをしていきたい。空き家対策などは今学んでいることと関係する部分があるので興味があった。
- ・子供を少しでも増やしていくために様々な支援をしていることを知ることが出来た。
- ・日本や鹿児島の将来が良くわかった。地方に残ることも大切だと思った。
- ・人口減少の問題は多々あるが日置市だけでなく、他の地域もそういう意識を持っていると思うが人口が増えないのはやはり個人個人の意識の問題になっていくのだと思った。
- ・何故自治体が消滅してはいけないのか分からなかった。
- ・日本のいろいろなことが分かった。
- ・人口減少や東京一極集中が思ったよりも深刻な状況であることが分かった。確かに地方創生の事業は重要だと感じたが自分も県内に残る可能性は低いので、直接的に関わることはできなくても何らかの取り組みで事業の手助けをしたい。
- ・日本の少子高齢化は本格的に進んでいるのを実感しました。

- ・人口減少については都市計画の授業で少し触れたくらいだったので詳しく話してくださって、分かりやすかったです。各自治体が行っている政策、対策を私たちが知ることが大切だと思いました。
- ・地方創生の難しさや日本の問題が分かりやすく理解できた。
- ・地方に残ってもらうために行う取り組みがとて多くて驚いた。
- ・地元が伊集院なんですが、改めて地元の良さを知れて良かったです。子づくり沢山します。
- ・地方の魅力を感じて県内就職も視野に入れようと思った。
- ・東京一極集中の問題と、地方創生について知ることができた。
- ・日置市については知っていたが、日置市がどんな場所でのようなものがあるか知らなかった為、そういうことを知れてよかった。私も県外就職を考えていますが、地元に残り鹿児島を盛り上げるのも良いかと思いました。
- ・地域には別に就職したいとは思わなかった。
- ・地方創生をもっと早く取り組んでいれば、東京一極集中を解消できたと思うが、既に都市圏に(資源・資本・活動)集中しているため出て行く人は増える一方だと思う。また、これから活動などを首都から地方に移そうとしても多大なお金がかかると思った。
- ・地方創生について理解することができた。
- ・一軒屋の 10 軒に 3 軒が空き家になっていると聞いて驚きました。この前テレビで空き家を壊すというプロジェクトがあり、その背景にはこのような状況があったからだ納得しました。
- ・鹿児島県の人口の流出の多さなど鹿児島の危機が分かった。
- ・県外就職希望でしたが、県内に残る魅力も感じられました。県外に就職しても、若いうちに鹿児島県に戻り、地方で活躍したいと思いました。人口減少を止めるための取組等も詳しく知ることができ、今までより県内の良さが分かりました。
- ・地方にも様々な魅力があると感じた。地方のメリット・デメリットを考慮して就職活動に役立てていきたい。
- ・私は県外に就職しようと思っているが、親を地方に置いていくのは不安だなと思った。
- ・地方と都市との格差について理解が深まりました。
- ・地方創生の重要なポイントを知れた。

6. 今回の特別講義(OB 事例発表)を受けての感想を自由に書いてください。

- ・鹿児島にも良い企業はあると思ったので、会社を辞めてしまった際には、鹿児島も選択肢に入れておきたい。
- ・高専の授業をしっかり受け止めようと思った。今のうちにたくさん勉強しようと思う。
- ・鹿児島で働く魅力を感じました。そして、鹿児島で働く選択もできました。
- ・学生の間に勉強しておくべきだと改めて感じた。
- ・将来地方で働いてみたいと思った・・・2 人
- ・OB の方の話を聞けて、将来について参考になった。
- ・地域密着型の会社が行っている事業のことをよく理解することができた。
- ・資格を取ることの大切さが分かりました。
- ・地元に着した仕事ができている、やりがいがあることが伝わった。県内企業に就職することも興味がわいた。県外に出て仕事をして、いつか県の為になることができたらと思った。

- ・二級土木施工管理技工や技術士は、建築業界に就職する上でも、持っているの良いと思うので勉強したいと思った。
- ・会社のことだけでなく、1 人の社会人としての意見を述べて下さったのでためになった。
- ・県内企業への就職をしたいと思った。
- ・分かりやすく地元の企業も良いと感じた。
- ・地元の企業だから出来る現場の設計があるというのは地元企業の魅力であると思った。現場での経験が大事だと分かった。
- ・コンサルタントの業務内容について、ある程度理解できたが、仕事にしないことはどのくらいあるのかあまりわからなかった。県内の企業も悪くないと感じた。
- ・コンサルタントの話だけだったが、どちらの企業に関しても今のうちに勉強をしたり、資格を取ったりしていた方がいいことが分かった。
- ・就職してからでも勉強をしないといけないが、資格試験の勉強などに時間をとれないため、学生のうちにできることはしておくべき。
- ・改めて資格取得に向けた勉強を頑張ろうと思った。
- ・学校での勉強が社会に出ても必要であることが改めて理解できた。
- ・コンサルタントについて理解できた・・・2 人
- ・よい時間をすごせた。
- ・技術だけでなく、コミュニケーション能力も必要だということが分かっておもしろそうだなと思った。
- ・地域密着型としての企業は、技術だけでなくコミュニケーションなども必要としていて面白そうだなと思った。

